

2018 平成30年度

TOYO UNIVERSITY

東洋



東洋大学雨水会報
Vol.158

目次

キャンパスガイド	
ウエルネスセンターの開設について	
東洋大学副学長	中原美恵……………1
白山キャンパス……………	3
川越キャンパス……………	4
板倉キャンパス……………	5
朝霞キャンパス……………	6
赤羽台キャンパス……………	7
平成三十年度 浦水会会長挨拶	
東洋大学浦水会会長	荻野雅彦……………8
浦水会役員名簿……………	9
本部役員・評議員・顧問	
理事長就任にあたって	
学校法人東洋大学理事長	安齋 隆……………10
創立者・井上由了の建学の理念を継承して	
東洋大学学長	竹村牧男……………11
留学の勧め	
学校法人東洋大学常務理事・	
浦水会常任理事	大熊廣一……………12
平成三十年度「父母懇談会」に参加して	
父母懇談会（石川会場）に参加して	
東洋大学副学長	高橋一男……………13
父母懇談会（福岡会場）に参加して	
東洋大学副学長	北脇秀敏……………14
学部だより	
テーマ「学生の主体性を育む取り組み 2022年」	
文学部長	矢口悦子……………15

経済学部長	小川芳樹……………16
経営学部長	長島広太……………17
法学部長	井上貴也……………18
社会学部長	大島 尚……………19
国際学部長	荒巻俊也……………20
国際観光学部長	飯嶋好彦……………21
情報連携学部長	坂村 健……………22
ライフデザイン学部長	齊藤恭平……………23
理工学部長	寺田信幸……………24
総合情報学部長	土田賢省……………25
生命科学部長	金子律子……………26
食環境科学部長	林 清……………27
平成三十年度「父母懇談会」を実施して	
川越キャンパス父母懇談会を実施して	
川越事務部次長	藤田正彦……………28
板倉キャンパス父母懇談会報告	
板倉事務部部長	深野弘美……………29
朝霞キャンパス父母懇談会を開催して	
朝霞事務部朝霞事務課課長補佐	網島啓介……………30
赤羽台キャンパス父母懇談会を開催して	
赤羽台事務部赤羽台事務課課長	渥美元康……………31
平成三十年度父母懇談会および 支部総会に参加して	
東洋大学浦水会常任理事	松村壮史……………32
大学事務局の窓口から	
グローバル人材育成の目的とその支援について	
国際部部長	高橋清隆……………33

学生生活における環境及び諸問題について	
学生部学生支援課課長補佐	椎名康行……………34
就職関係	
就職・キャリア支援部部長	石井健一……………35
納付金（学費等）について	
経理部財務課……………	36
浦水会活動	
平成29年度浦水会活動報告……………	37
平成29年度事業報告……………	
平成29年度会計報告……………	
平成30年度浦水会活動計画……………	43
平成30年度事業計画……………	
平成30年度予算書……………	
平成30年度父母懇談会・支部総会報告……………	47
平成31年度父母懇談会及び 支部総会日程（案）について……………	48
平成三十年度浦水会	
「会員の集い・就職フォーラム」を開催して	
東洋大学浦水会副会長	竹内夕美子……………49
学研災付帯学生生活総合保険のご案内……………	50
浦水会からのお知らせ……………	52
東洋大学父母ホットライン……………	

本文中の写真は東洋大学広報課・
東洋大学スポーツ新聞編集部・その他提供

東洋大学ウエルネスセンター

「学生一人ひとりの

ウエルネス (wellness) の実現のために」

東洋大学副学長 学生部長・ウエルネスセンター長 中原 美恵

平成30年10月、学生一人ひとりの「ウエルネス (wellness)」の実現を支援することを目的とし、東洋大学ウエルネスセンターが開設されました。

ウエルネス (Wellness) とは、米国のHalvert J. Dunnが提唱したより積極的な健康の概念ですが、これを「自らの健康な力を高めるとともに、それを活用してより積極的に生きようとする意志と実行力を有する状態」と捉え、センターの名称としました。そこには、本学の学生一人ひとりが自己の素質や持ちうる能力を最大限に活用してより積極的に生きてほしいという願いと、みんなでそれを支援していきたいという私たちの思いが込められています。

ウエルネスセンターは、まず白山キャンパスでスタートしますが、専門職による支援の輪は、白山以外のキャンパスにも広がっていきたくと考えています。白山キャンパスでは、医務室が「保健管理室」に代わり、メンタルヘルスに関わる専門職が配置されます。これまでの学生相談室とバリアフリー推進室は、「学生サポート室」として統合され、カウンセリングや修学環境の調整を行っていきます。大学ではまだ珍しいのですが、学生サポート室には、ソーシャルワーカーが専門職として新たに加わるようになりました。障がいがある学生の支援を担当するほか、学生の立場に立って、生活の相談や福祉サービスの紹介などをしてくれ

ます。また、学生サポート室には、学生の交流と支え合いの場として、ピアサポートルームが新設されました。

「ピアサポート (Peer support)」には、同じような立場の仲間が相互に助け合い、支え合うという意味があります。ピアサポートルームでは、学生同士の交流や仲間として支え合う体験を通して、学生一人ひとりが成長していきけるよう、さまざまなプログラムを展開していく予定です。また、キャンパス内のどこに相談していいのかわからないという時、気軽に相談できる学生総合インフォメーション窓口もありますし、障がいがある学生の支援もここで受け付けています。



ピアサポートルーム

本学には、視覚や聴覚に障がいがある学生の授業支援をしてくれるボランティア学生が何人もいます。毎年、希望者を募り、研修を行って、仲間 (peer) を増やしてきました。これは、ピアサポートの一つの例です。誰か

の支えが必要な学生と、誰かを支える力になりたい学生がピアサポートルームで出会い、お互いに「より輝いて生きる自分」を見つけられよう、応援していきたいと思えます。それこそが一人ひとりのウエルネスの実現につながるからです。

近年、発達障がいや性的マイノリティ、キャンパス・ハラスメントなど、大学における学生支援のニーズは、多様化しています。これまでの10年の変化も大きなものですが、これからの10年を想った時、学生支援の新たな課題に対応しうる支援体制が求められています。本学では、この度のウエルネスセンター開設と併せ、学内にハラスメント相談室も新設されました。

本学学生一人ひとりが心身の健康を保ち、充実した学生生活を送れるよう、学生部では、これからも様々な学生支援の取り組みを行ってまいります。雨水会の皆様には、これまで同様、本学の学生支援事業を応援いただき、学生の成長を力強く後押ししていただけますよう、心よりお願い申し上げます。特に、本学学生アスリートの活躍に対し、全国から熱い応援を届けていただいております。すことは、選手それぞれの躍進のパワーになっていきます。今後とも一層のご支援をよろしく願っています。



中原 美恵

副学長・学生部長

千葉工業大学情報科学部教授を経て、2006年本学ライフデザイン学部教授（生活支援学科子ども支援学専攻）に着任。専門は教育心理学。教育臨床心理学・スクールカウンセリング・子育て支援実践。二十数年に亘り、認定臨床心理士として、幼児から高校生までの子どもとその保護者の相談支援にあたる。また、文部科学省、自治体教育委員会、児童福祉関係委員会、裁判所等の委員を歴任する。それらの経験を活かし、本学において一貫して学生の成長を第一に考え、課題に取り組む学生支援を推進する。

ウェルネス (Wellness) とは・・・? What's Wellness?

「自らの健康な力を高めるとともに、それを活用してより積極的に生きようとする意志と実行力を有する姿」です。

ウェルネスセンターは、「保健管理室」「学生サポート室」「ピアサポートルーム」の専門職スタッフが連携し、ウェルネスの実現を支援します。



学生サポート室 Student Counselling Office

- 学生生活に関する相談
友人・対人関係、進路、学業に関する悩みなど、気軽に訪ねてください。



私たち専門職スタッフがサポートします

学生相談員 (臨床心理士)

開室時間 時間を変更する場合があります。ホームページをご確認ください

平日 9:30 ~ 13:00 土曜 9:30 ~ 12:45
14:00 ~ 20:15 17:30 ~ 20:00

- 人間関係で悩んでいる
- 心身の不調で学業に集中できない
- 進路のことで迷っている

学生
サポート室へ

ピアサポートルーム Peer Support /Accessibility Services

- 学生総合インフォメーション窓口 ■ 障がい学生の支援 ■ ピアサポート



私たち専門職スタッフと仲間 (peer) の力でサポートします

社会福祉士、精神保健福祉士

開室時間 時間を変更する場合があります。ホームページをご確認ください

平日 10:00 ~ 13:00 土曜 9:30 ~ 12:45
14:00 ~ 18:30

- キャンパスライフに関するちょっとした相談は、何でも気軽に、総合インフォメーション窓口へ
- 障がいのため、困っていることを解決したい
- 困っている友達の力になりたい

ピアサポート
ルームへ

保健管理室 Health Consultation Office

- 健康に関する相談 ■ 健康管理のサポート
- 救急処置 ■ 医療機関の紹介



私たち専門職スタッフがサポートします

医師、看護師、産業カウンセラー

開室時間 時間を変更する場合があります。ホームページをご確認ください

平日 9:30 ~ 20:15 土曜 9:30 ~ 12:45
17:30 ~ 20:00

こんなとき誰に相談したらいいの?

- 急病やけがなどの応急処置が必要なとき
- 体調に不安がある
- 大学近隣の医療機関を紹介して欲しい

保健管理室へ

ピアサポート Peer support

- ピア (peer) とは、仲間・同じ立場にある人同士の意味です。

ピアサポートルームでは仲間として交流しながら、お互いに助け合い、支えあう関係を大切にします。

自主的・主体的に取り組むピアサポートの体験を通して学生一人ひとりが成長できるよう支援します。

ピアサポートに関心がある人、やってみたい人は、ぜひ一度のぞいてみてください。

白山キャンパス

〒112-8606
東京都文京区白山5-28-20

文・経済・経営・法・社会・
国際地域・国際・国際観光学部
イブニングコース (第2部)
大学院

PHOTO



敷地：3万6,412㎡／校舎：11万2,712㎡

1887(明治20)年に本郷区龍岡町(現・文京区湯島)の隣祥院で創立し、1897(明治30)年より小石川区原町(現・文京区白山)に校舎を構え、この地とともに歴史を歩んできました。創立100周年を機に、高層集約化による近代的なキャンパスとなり、文系学部・イブニングコース(第2部)・大学院の学生、約22,000名が通学しています。

創立者・井上円了博士の立像が見守る「甬水の森」は、地形を活かした緑と水のオープンスペースが評価を受け、2003(平成15)年度に文京区の第3回文の京都市景観賞「景観創造賞」を受賞しました。

5号館は、井上円了ホールと井上円了記念博物館があり、創立者を記念した建物となっております。

6号館は、西門のポケットパークやシンボルツリー(大楠)、屋上緑化が評価され、2005(平成17)年度第5回文の京都市景観賞「景観創造賞」や、2006(平成18)年度東京都環境賞「知事賞」を受賞しました。

創立125周年を迎えた2012(平成24)年に「研究開発」「国際化」「交流・発信」の機能を備えた125周年記念館(8号館)、9号館が完成。2017(平成29)年に10号館が完成しました。タワー型の2号館からは副都心を一望できます。キャンパス内には複数の学食スペースがあり、メニューも豊富に取り揃えています。

MAP



ACCESS

- JR巣鴨駅から浅草寿町行バスで10分、東洋大学前下車。
- 都営地下鉄三田線で白山駅下車、徒歩5分。
- 都営地下鉄三田線で千石駅下車、徒歩7分。
- 東京メトロ南北線で本駒込駅下車、徒歩5分。

テレホンガイド

ご案内事項	取扱い窓口	電話番号
● キャンパス代表	総務課	03-3945-7224
● 教務関係		
授業・成績等	文学部	03-3945-7595
	経済学部	03-3945-8421
	経営学部	03-3945-7247
	法学部	03-3945-8547
	社会学部	03-3945-8538
	国際学部 国際地域学部国際地域学科	03-3945-4233
	国際観光学部 国際地域学部国際観光学科	03-3945-7733
大学院	03-3945-7250	
証明書音声ガイド	各学部共通	03-3945-7225
● 学生生活関係		
奨学金	学生支援課	03-3945-7124
アルバイト・下宿・アパート		
サークル活動		09-3945-7262
運動部関係		03-3945-7270
保健管理室		03-3945-7278
学生サポート室		03-3945-7265
学生サポート室(障がい学生支援)	03-3945-8673	
● 就職関係		
進路・就職相談	就職・キャリア支援部	03-3945-7280
● 国際交流関係		
留学関係	国際教育センター/国際部	03-3945-7558
学費関係	財務課	03-3945-7305
寄付・募金関係	募金課	03-3945-7498
入試	入試課	03-3945-7272
図書関係	図書事務課	03-3945-7325

川越キャンパス

〒350-8585
埼玉県川越市鯨井2100

理工学部・総合情報学部
大学院理工学研究科
大学院総合情報学研究科
大学院学際・融合科学研究科

PHOTO

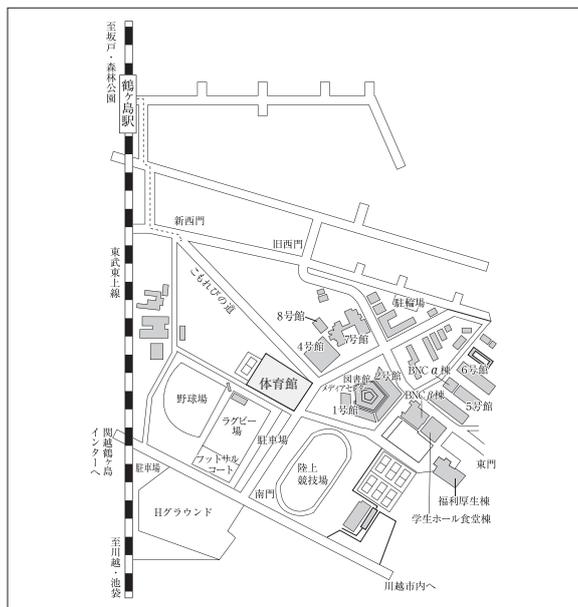


敷地：28万6,981㎡／校舎：7万6,300㎡

川越キャンパスは、1961(昭和36)年に工学部の学生が学ぶキャンパスとして開設されました。現在では理工学部、総合情報学部、大学院に在籍するおよそ5000名の学生が学ぶ場となっております。東京ドーム約6個分という広大な敷地を活かし、「物創り工房」や「バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター」など多くの研究施設を設置しています。数学・物理・英語などの基礎科目に対応した「学習支援室」や留学、海外インターンシップ、語学学習などについて支援する「グローバルコミュニケーションスペース(GCS)」などの学習施設も設置しています。また、部活動、サークル活動も盛んで、川越だけで50以上のサークルが活動しています。

その一方で、陸上競技場やラグビー場、野球場など各種グラウンドを備え、2018年3月には国内では珍しい屋内走路を併設した体育館を新築いたしました。また「大越記念庭園」や新西門から始まる「こもれびの森」のような豊かな自然を持つキャンパスでもあります。その他、川越市と協力して行っている地域連携プログラムや一般の方に参加いただける「オープンカレッジ」、「こもれびの森・里山支援隊」など学外と協働した事業も行っております。

MAP



テレホンガイド

ご案内事項	取扱い窓口	電話番号
●キャンパス代表	総務課	049-239-1300
●教務関係		
履修・成績・試験・学籍 教職・各種証明書	教 学 課	049-239-1312
●学生生活関係		
奨学金・クラブ・サークル活動	教 学 課	049-239-1314
アルバイト ※	職ナジック・アイ・サポート	03-5466-1236
下宿・アパート ※	(株)ミニミニ城北	049-228-8832
学生相談室		049-239-1544
医務室(健康管理)	教 学 課	049-239-1317
※川越キャンパスでは業務委託をしております。		
●就職関係		
求人受付 就職相談	教 学 課	049-239-1641
●学費・入試関係		
学費	総 務 課	049-239-1303
入試関係	教 学 課	049-239-1392
●図書関係		
図書館川越	図 書 館	049-239-1321

ACCESS

- 池袋駅から東武東上線で急行38分、
鶴ヶ島駅下車、徒歩10分。

板倉キャンパス

〒374-0193

群馬県邑楽郡板倉町泉野1-1-1

生命科学部・食環境科学部
大学院（生命科学研究科・食環境科学研究科）

PHOTO



敷地：33万1,963㎡／校舎：3万4,279㎡

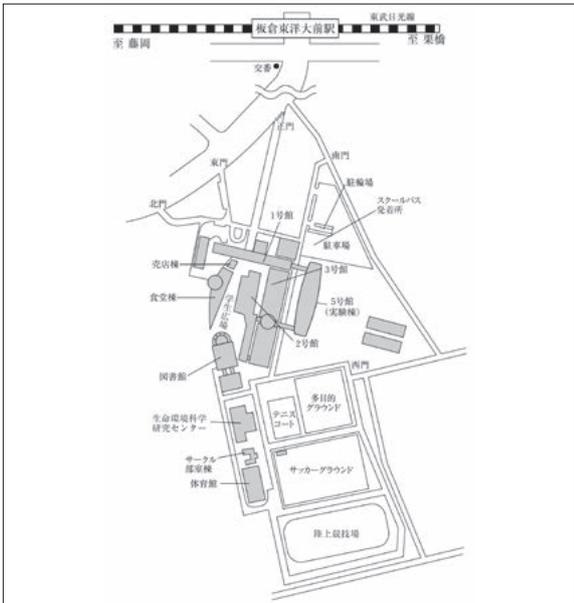
板倉キャンパスは、1997年に群馬県板倉町に創設された生命科学部、食環境科学部、大学院生命科学部、食環境科学部、2研究科を有するキャンパスです。緑豊かで東京ドーム7個分という敷地を持つこのキャンパスで、約2000人の学生が勉学に励んでいます。

キャンパスには、多くの実験設備や学習環境が備えられています。2010年に完成した5号館は、「シーズ（生命の種）」をモチーフとしたガラス張りのモダンな設計となっています。36の実験室、10の共通機器室に最新の実験機器を有しており、多くの学生、教員が研究活動に励んでいます。また、3号館には給食経営管理室等が設置され、管理栄養士を目指す学生が約1000人分の大量調理実習を行う事が可能です。

また板倉キャンパスには陸上競技部女子長距離部門、体育会サッカー部女子部の学生が在籍しており、専用グラウンドで日々練習に励んでいます。

更に図書館や体育施設、学生食堂などは、地域の方にも利用していただいているほか、サイエンスカフェ、イルミネーション点灯式など地域の方にご参加いただけるイベントも多く企画しており、地域と密接な関係を築いています。

MAP



ACCESS

- 池袋駅からJR宇都宮線（湘南新宿ライン）、東武日光線で79分。北千住駅から東武スカイツリーライン、東武日光線で63分。板倉東洋大前駅下車、徒歩10分。

テレホンガイド

ご案内事項	取扱い窓口	電話番号
●キャンパス代表	板倉事務課	0276-82-9111
●教務関係		
生命科学部	板倉事務課	0276-82-9118
食環境科学部		0276-82-9171
大学院		0276-82-9119
●学生生活関係		
奨学金	板倉事務課	0276-82-9172
サークル活動		0276-82-9172
アルバイト		0276-82-9172
学生相談室		0276-82-9132
医務室（健康管理）		0276-82-9123
●就職関係		
求人受付	板倉事務課	0276-82-9117
就職相談		0276-82-9117
●国際交流関係		
海外留学	板倉事務課	0276-82-9171
●学費等関係		
学費	板倉事務課	0276-82-9118
●入試関係		
学部入試	板倉事務課	0276-82-9109
大学院入試		0276-82-9119
●図書関係		
図書館	図書事務課 （板倉）	0276-82-9060

朝霞キャンパス

〒351-8510
埼玉県朝霞市岡48-1

ライフデザイン学部

PHOTO



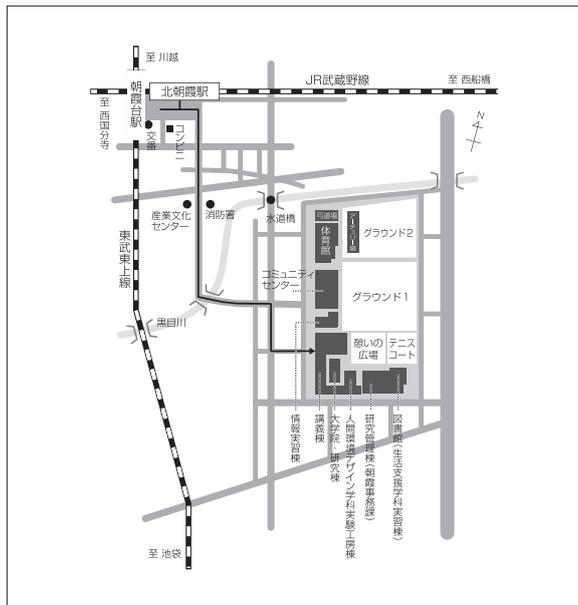
敷地：6万9,774㎡／校舎：3万2,797㎡

朝霞キャンパスは、池袋からわずか18分の東京都心に近い埼玉県南部の武蔵野の自然が多く残る朝霞市の東武東上線朝霞台駅とJR武蔵野線北朝霞駅より徒歩10分のところにあります。キャンパスのすぐ近くを流れる黒目川は朝霞市の桜の名所であり、花まつりや人々の憩いの場所となっております。

朝霞キャンパスで学ぶライフデザイン学部は、諸資格取得のための実習授業が多いことも特徴の一つです。そのため、キャンパス内には、多様な授業目的のための実習設備が完備され、より実践的な知識や技術を学ぶことができます。例えば、介助技術の授業のための介護実習室、入浴実習室、調理実習室などや、保育士幼稚園教諭の授業のための保育実習室、音楽実習室、ピアノ練習室などがあります。テニスコート、サッカークラブ・アメフト競技用の人工芝グラウンド、ソフトボール場、体育館にはアリーナのほか、トレーニング機器を設置しているトレーニング場があり、これらの体育施設は授業のためだけでなく、学生の課外活動などでも広く利用されています。また、デザインや制作などの授業や演習で使用できる実験工房には各種演習用の工作機械室や学生がいつでも作業できるアトリエスペースが設置されており、学生がものづくりに専念できる環境を備えています。

その他、大型絵本のある図書館や学生の課外活動のためのコミュニケーションセンターなどがあります。キャンパスの中央には木々に囲まれた憩いの広場があり、休み時間や空き時間には友人とおしゃべりをしたり、軽く体を動かしたりする学生が多く見られます。

MAP



ACCESS

- 池袋駅から東武東上線で急行15分、朝霞台駅下車、徒歩10分。
- JR武蔵野線北朝霞駅下車、徒歩10分。

テレホンガイド

ご案内事項	取扱い窓口	電話番号
●キャンパス代表	朝霧事務課	048-468-6311
●教務関係		
履修・成績・試験 学籍・証明書	朝霧事務課	048-468-6451
●学生生活関係		
サークル活動	朝霞事務課	048-468-6408
奨学金		048-468-6457
学生相談室		048-468-6462
医務室（健康管理）		048-468-6607
●キャリア形成支援関係		
キャリア形成支援（就職）	朝霧事務課	048-468-6461
●学費等関係		
学費	朝霧事務課	048-468-6321
●入試関係（ライフデザイン学部）		
入試	朝霧事務課	048-468-6461
●図書関係		
図書館	図書事務課	048-468-6331

事務局へご質問・ご相談等ありましたら、ご遠慮なく各キャンパスのテレホンガイドによりお尋ねください。担当部課室の電話は、すべて直通となっております。

（お電話受付時間）
平日 9：30～12：45、14：15～16：45
土曜 9：30～12：45

なお、電話の場合は、必ずご自分の姓名と「学生の学科・学籍番号・名前」を申し出てください。申し出のない場合は、お断りする場合がございます。また、内容によってはお電話ではお答えし兼ねる場合がございますことを合わせてご了承ください。

赤羽台キャンパス

〒115-0053
東京都北区赤羽台1-7-11

情報連携学部
大学院（情報連携学研究科）

PHOTO



敷地 約20,000㎡ 校舎 約18,000㎡

赤羽台キャンパスの最寄り駅、JR赤羽駅は、都心のみならず、横浜、大宮ほかの主要地点からのアクセスにも優れています。駅からは近いながら、駅周辺の喧騒から離れ、住宅街の落ち着いた環境の中にあります。

情報連携学部（Information Networking for Innovation and COE）通称INIAD）では、コンピュータ・サイエンス教育を基盤とし、チームを組んでコンピュータを使いこなし、情報を通して連携し、素早くアイデアを形にできるような人材を養成しています。

INIADの多くの授業は、少人数教室でのディスカッションやチーム学習を中心に行なっており、また、従来の教室とは異なり、黒板もホワイトボードもありません。学生は各自自分のパソコンを大学に持参して、インターネットを通じて、事前に配布される教材や授業で出た課題に取り組んでいます。

また、本のない図書館であるメディアセンターで、学生は電子ブックや電子ジャーナルで調べものをしたり、グループで集まって学習したりしています。学生には必要な情報を、紙の掲示板ではなく、すべて校舎内のデジタルサイネージやメール等でお知らせしています。

INIAD専用の校舎INIAD HUB-1は、最先端のIoTビルディングで、建物自体がIoT教材でもあります。教室や部室の鍵や照明、空調、ロッカー、エレベーター、各種のセンサーなどの様々な設備がインターネットに接続され、学生を個々に識別するだけでなく、学生は定められているルールの範囲内で、自分たちの環境をプログラミングによってより使いやすくしていくことができます。

なお、二〇二一年度には、ライフデザイン学部の朝霞キャンパスからの移転が予定されており、当キャンパスの一層の発展が見込まれております。

MAP



テレホンガイド

ご案内事項	取扱い窓口	電話番号
●キャンパス代表	赤羽台事務課	03-5924-2600

〈お電話受付時間〉
平日 9:30~13:00、14:00~18:45
土曜 9:30~12:45

ACCESS

- JR赤羽駅より徒歩8分
- 東京メトロ南北線赤羽岩淵駅より徒歩12分



平成三十年度甫水会会長挨拶

東洋大学甫水会会長 荻野 雅彦

皆様こんにちは。今年度甫水会会長の荻野雅彦でございます。皆様におかれましては、日頃より甫水会の活動に対しましてご理解ご協力を賜り誠にありがとうございます。

東洋大学甫水会は、「学生の父母又は保護者相互間の連絡を密にし、大学の興隆発展に協力するとともに、大学と協力して学生の心身の健全な発達を図ること」を目的に創立され、現在全国56支部、約2万7千名余りの会員の皆様で構成された全国屈指の伝統と規模を誇る父母会でございます。そして今年1月には創立60周年の節目を迎えることができました。これもひとえに関係各所、皆様方のご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

甫水会は大学との連携・協働、学生たちへの支援充実、そして会員相互の親睦・連帯という3つを大きな柱に据え事業を展開しているところでございます。60周年という節目を機に、今一度創立の理念に立ち返り、新たな時代に向け微力ではありますが大学・学生・会員の期待に応えるべく努力していく所存でございます。

さて、昨年6月から大学主催にて各キャンパスで学部別父母懇談会が、また全国各地で地区別父母懇談会が甫水会本部役員・各支部役員が側面支援するといった形で開催され、今年度甫水会がスタートしました。地区別父母懇談会では、教授・職員の方々が地方に足を運ばれ、大学の説明や就活の現況等を丁寧にご説明いただきました。ご出席されたご父兄の方々からは、「大学の面倒見の

良さ、温かさがすごく伝わった」「ひとり生活を始めた子どもたちの生活や就活に関する不安が取り除かれた」等々、大変ご好評をいただきました。また、本部役員も全国の各支部へお伺いし、同日開催の支部総会・懇親会に出席させていただき、多くのご父兄・支部役員の方々からご意見ご要望、また各支部の抱える問題点等課題を伺うことができ、とても有意義なひと時となりました。

11月には、大学関係部署から多大なるご協力を頂き、本部甫水会メイン事業となります、「会員の集い・就職フォーラム」が開催され、井上円了ホールに全員を収容できず一部ご不便をおかけしましたが、全国各地から斯くも大勢のご父兄にご参加いただきました。ご子女の学生生活・就活に対する関心の高さを改めて実感する光景となりました。

前述の通り、本部甫水会は活動の一つとして大学との一体感の醸成に努めているところでございます。学校法人の理事長をはじめとする経営陣方々との面談の場や、様々な大学行事でお会いする学長・副学長との懇談の場等、貴重な機会をご提供いただいております。大学の掲げる目標の認識共有、相互理解の深化に資する非常に有意義な機会であります。また今年60周年の年にあたり、記念式典と記念事業を実施させていただきますが、このような「和」が教授・職員方々とご父兄方々との接点の拡大にまで広がり、継続的な流れとなる事を期待しております。延いてはそのような取

り組みが大学の向上の一助になると信じております。

また学生への支援としましては、学部行事やキャンパス毎の学園祭やイベントへの協賛、文化部・運動部への援助や応援、試験前の1000円朝食、就職支援グッズの配布、甫水会奨学金等々多岐にわたります。甫水会の支援が独善的にならないよう、また学生たちの要望を身近に感じられるよう、学生部との定期的な意見交換の場を持たせていただけたこととなりました。常に学生たちの要望には耳を傾け、充実した学園生活の一助となるよう、可能な限り支援したいと考えております。そして会員相互の親睦と連帯といたしましては、各支部役員方々にご尽力いただき、毎年研修旅行や就職講演会、運動部の応援等を企画していただいておりますが、一方で地理的条件により広域な支部では行事に参加しづらい現状もございます。首都圏・地方支部の現状を各々しかりと把握し、本部としましても一緒に知恵を出し合い、今後の支部の活性化を応援していきたいと存じます。

今年度は平成という時代が幕を閉じ、元号も変わります。また来年にはオリンピック・パラリンピックも開催されます。甫水会としましては事業の継続に留まるだけでなく、会員方々の声を反映させた、新たな時代に相応しい事業運営を心がけていかなくてはならないと実感しております。同時に指摘の多いITの活用、HPの充実、事業内容の改善、業務の効率化等々……スピード感を持って改善に取り組んでまいりたいと存じます。

最後になりますが、引き続き甫水会に対しご理解とご協力を賜りますとともに、東洋大学の益々のご発展と皆様方のご健勝を心よりご祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

浦水会役員名簿

平成三十年度本部役員

役職名	氏名	支部名
会長	荻野 雅彦	埼玉北
副会長	奥澤 敬子	栃木
副会長	竹内夕美子	多摩
常任理事	大熊 廣一	大学推薦
常任理事	松村 壮史	神奈川
常任理事	阪上 正樹	埼玉南
常任理事	増田 孝	千葉東
常任理事	小瀧 早苗	千葉西
常任理事	濱田麻衣子	埼玉東
監事	加門 由章	茨城
監事	金田 共加	埼玉中
理事・地区長(北海道)	菅野 憲紘	札幌・函館
理事・地区長(東北)	成 文 瑞	青森
理事・地区長(関東)	田口 智子	埼玉東
理事・地区長(甲信越)	鈴木 一紀	新潟
理事・地区長(北陸)	佐々木ゆかり	富山
理事・地区長(東海)	藤澤 浩	三重
理事・地区長(近畿)	阪井 和篤	和歌山
理事・地区長(中国)	阿部 亮介	広島
理事・地区長(四国)	京河 一臣	愛媛
理事・地区長(九州)	高橋 俊充	長崎

評議員(支部長)

会則第20条2項(支部長)

支部名	氏名
札幌・函館	菅野 憲紘
旭川	東 晃司
北見	清水 伸一
室蘭	猪狩 美香
釧路	長原 京子
青森	成 文 瑞
岩手	鴨澤 純子
宮城	上泉 恵子
秋田	金 博之
山形	東海林正樹
福島	草野 光平
茨城	坂本 隆司
栃木	渡邊 裕
群馬	間宮 智将
埼玉北	高木 智香
埼玉中	高島 昭彦
埼玉東	福岡美矢子
埼玉南	織茂 邦子
千葉東	古米 博文
千葉西	田島 剛
城東	田口 智子
城西	吉田 寿子
中央	山口 貴佐
城北	芝崎 善治
多摩	西山 博行
神奈川	田中 守

支部名	氏名
新潟	鈴木 一紀
山梨	嶋下美智子
長野	三澤 均
富山	佐々木ゆかり
石川・福井	深井志津子
岐阜	虫賀 靖起
静岡	藤崎 仁美
愛知	坂本 謙
三重	藤澤 浩
京都・滋賀	松山 智春
阪奈	納 幸盛
兵庫	伊藤 素
和歌山	阪井 和篤
鳥取	吉田 均
島根	福島 昇
岡山	池田 裕子
広島	阿部 亮介
山口	広林真理子
山梨	鶴本 尚美
徳島	高橋 一志
香川	高橋 一志
愛媛	京河 一臣
高知	三木 守
福岡	棚町佐武郎
佐賀	恒松 勇
長崎	高橋 俊充
熊本	青山 正志

顧問

氏名
阿部 雅道
櫻井 昌代
砂賀 栄次
小田 直子
峯松 益幹

支部名	氏名
茨城	服部 淳
埼玉中	賀山 勉
埼玉東	石川 信子
埼玉南	山本真由美
千葉東	橋本 吉浩
千葉西	木島 久夫
城東	早川 恵
城北	遠藤まき子
多摩	栗原 成行
神奈川	鈴木 貞好

会則第20条2項
(1000名を超える支部)

支部名	氏名
大分	櫻井 武彦
宮崎	今西 俊郎
鹿児島	満塩 和昭
沖縄	仲宗根 優



理事長就任にあたって

学校法人東洋大学 理事長 安齋 隆

東洋大学浦水会会員の皆様には、日頃から東洋大学の発展に温かいご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

2018年12月に理事長に就任した安齋でございます。東洋大学のさらなる発展に誠心誠意尽力する決意をしました。未来ある若い世代に対する責任の重さに思いを致すとき、身の引き締まるのを覚えます。

来し方を振り返ってみると、人生は毎日が学びと努力の連続であり、それに耐えうる力は学生時代に養成されるように思います。歴史ある本学のさらなる発展は、本学で学ぶ学生の皆さんが学ぶことに生きがいを感じ、その成果が蓄積されていくことに喜びを感じ、自信を持ち、それを誇りに思うようになることにかかっています。その中で、学生、生徒、園児の皆さんをサポートし教育研究活動に勤しむ教職員や、卒業生の皆さんにも本学を誇らしく感じてもらえるようになることを願ってやみません。

われわれを取り巻く環境には、世界的な政治経済情勢の激しい変化や止まることのない技術革新など、厳しいものがあります。本学はそのような

中で生き続けるために的確に変化に対応していくことが求められています。しかし右往左往することは許されません。いつも基本を忠実に守るといふ決意と愚直さが極めて重要となります。本学の基本とは、創立者井上円了先生が求められた「哲学する」という言葉に凝縮されているように、自ら真剣に自分の未来を「考える」ということではないでしょうか。

本学は2014年9月に「TOYOGLOBAL DIAMONDS構想」が文部科学省のスーパーグローバル大学創成支援事業に採択され、世界を舞台に活躍する人材を育成する改革に取り組んでいます。全学にわたってさらにグローバル教育を充実強化してまいります。

本学をめぐる環境は、18歳人口の減少、激化する大学間競争などで今後さらに厳しいものになると考えています。学生、教職員、役員の皆さんと共に「歩きながら考え」、「考えながら歩き」、本学の未来を拓こうと考えています。

浦水会会員の皆様におかれましては本学の発展にご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。私のご挨拶とさせていただきます。





創立者・井上円了の 建学の理念を継承して

東洋大学学長 竹村 牧男

平成二九年（二〇一七）は、東洋大学創立百三十周年の年でした。平成三〇年（二〇一八）は、井上円了（一八五八―一九一九）生誕百六十周年と円了百回忌の年に当たりました。平成三二年（二〇一九）は、円了没後百周年の年となり、井上円了に関するおおがかりな国際シンポジウムの開催などを企画しています。このように、ここ数年、本学にとって記念の年が続いており、おのずから創立者の思想や理念等をふりかえり、これら現代に活かすことをあらためて考えるべき時期になっています。

現在、本学では建学の理念を表す言葉として、「諸学の基礎は哲学にあり」「知徳兼全」「独立自活」の三つを掲げています。まず、「諸学の基礎は哲学にあり」の「哲学」とは、何もカントやヘーゲル等を学ぶということではありません。常識や流行、先入観や偏見等を一度、離れて、事柄の本質に迫って深く考え抜くことが哲学です。この「哲学すること」は、自主的・主体的に社会に関わっていくにあたって、きわめて重要なことです。

現代社会において、今、重要なのは、①知識や技能を活用して複雑な事柄を問題として理解し、

答えのない問題に解をも見出ししていくための批判的、合理的な思考力をはじめとする認知的能力、②想定外の困難に際して的確な判断をするための基盤となる教養、知識、経験、等を育むことである等と言われていますが（中教審「質的転換答申」、平成二四年八月）、これらの基盤になるものが、前に言う、「哲学すること」にあるでしょう。

また、「知徳兼全」とは、知性と徳性とを十全にそなえた人間となること、今日の言葉でいえば、学力と人間力の双方を十全に身につけることと言えるでしょう。学力には、一般的な教養と、専門的な知識・技能等があります。人間力については、たとえば先年、経済産業省から発表された、次のものが参考になるでしょう。

「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎力」①前に踏み出す力（アクション）… 一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力②主体性、働きかけ力、実行力。

②考え抜く力（シンキング）… 疑問を持ち、考え抜く力③課題発見力、計画力、創造力、④チームで働く力（チームワーク）… 多様な人々とともに、目標に向けて協力する力⑤発信力、傾聴力、柔軟

性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力、「社会人基礎力に関する研究会」中間報告、平成一八年二月）

さらに、「独立自活」にはさまざまな意味が込められていますが、最近の高等教育の潮流に照らせば、自学自修の意欲を持ち、これを実践することと理解できます。自学自修とは、単に授業を受け身で聴くのみでなく、予習も行い、授業で学んだことをふまえてさらに自ら調査・研究を深め、より広く深く事柄の理解を展開していくことです。そのような主体的な学びがあつてこそ、その科目の単位が認定されるにふさわしいとされています。こうしてみますと、円了の教育理念は、今日の高等教育の課題を先取りしたものとと言えます。もちろん、グローバル化・ボーダレス化した現代の地球社会を生き抜くためには、優れたグローバル人材として成長することも欠かせないでしょう。問題はこうした高尚な理念をどのように本学の教育活動に具現していくかにあります。

幸い、本学の教職員は一丸となつて、時代の先端に求められている人財育成に取り組んで下さっています。また高等教育推進センターでは、教育活動のより高度な水準の実現に向けて、諸施策の企画、諸制度の構築に鋭意、取り組んでいただいております。

井上円了没後百周年を機に、本学の教育・研究・社会貢献のあらゆる面でさらなる高度化を追求して参る所存です。皆さまの、ご協力及びご支援を心よりお願い申し上げます。



留学の勧め

学校法人東洋大学常務理事・浦水会常任理事 大熊 廣一

浦水会会員の皆様には、日頃から東洋大学の発展にご支援、ご協力を賜り心から感謝申し上げます。また、東洋大学地区別父母懇談会では各支部の役員をはじめとする会員皆様方のご支援、ご協力をいただきましたこと改めて御礼申し上げます。

本学は、文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援事業」の採択を受け、新たな価値を創造する「グローバル人材」の育成、国際化を推進する新学部の設置などを行ってきています。グローバル化による競争力激化や多様性の受容、第4次産業革命・Society5.0(IoT)、ビッグデータ、AI、ロボット等)、急速な少子高齢化など社会全体の構造が劇的に変容する時代を迎えています。また、就職戦線もグローバル化し海外の学生と互角に渡り合っていかなければなりません。わが国の将来を見据え、次世代のリーダーとしてけん引役となる学生の皆さんには、自ら主体的に考える力、未知の時代を切り拓く力、国際通用力を身に付けていただきたいと思えます。この3つの力を修得するには、

留学が有効であると考えています。期間の長短に関わらず、海外から自分の国を見つめ直し、異文化や多様性を理解し、自らの力で生きていくことを体験することが貴重なものになると考えます。

より効果がある留学のためには、まず英語コミュニケーション能力の向上が必要になります。本学では、授業の空き時間に受講できる学内英会話講座や英語力検定試験無料受験など各種英語力向上支援プログラムを実施しています。また、留学に際しては海外留学促進奨学金制度を設け、2017年度は総額で1億円程になる349件の奨学金を給付しています。夏季、春季休暇に実施している英語能力を問わない海外異文化体験は、国際的な視点で自分を見つめ直す機会となるばかりでなく、その後の英語学習に大きな影響を与えています。

また、留学経験者は、短期、長期に関わらず一般的にジェネリックスキルが向上しています。このジェネリックスキルとは「知識活用力」や「行動実践力」で、経済産業省が定めた「社会

人基礎力」や文部科学省が定めた「学力」に対応します。本学ではジェネリックスキルを測定するプログラム(PROG)を導入しており、入学時と就職活動準備時期である3年次に実施し、この結果を学生個人にフィードバックしています。

このプログラムでの「知識活用力」とは、問題解決のプロセスで求められる情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力を指し、「行動実践力」とは、対人基礎力、対自己基礎力、対課題基礎力で、自分だけでなく周囲を巻き込んで行動する力をいいます。留学経験者は、「知識活用力」における情報収集力、情報分析力の伸長度が高く、「行動実践力」では、対人基礎力、対自己基礎力、対課題基礎力のいずれもが伸長しており、特に多様性理解、ストレスマネージメント、独自性理解、主体的行動、本質理解、リスク分析などに著しい伸長が見られます。社会全体の構造が劇的に変容する時代においては、いずれも必要な能力であると考えます。留学での異文化の人々との交流や経験によって新たな目標を見つけ出す学生も多いようです。短期間の留学でも学生の皆さんは大きく変わります。保護者の皆様にはぜひ留学を勧めていただければと思います。

平成三十一年度「父母懇談会」に参加して

平成三十一年度父母懇談会

(石川および富山会場)に参加して

東洋大学副学長 高橋 一男

2018年度浦水会地区別父母懇談会の2地区における懇談会に出席しましたのでその報告をいたします。

まず7月28日(土)に石川県金沢市のANAクラウンプラザホテル金沢を会場に浦水会石川・福井県支部の懇談会に出席しました。次に翌日7月29日(日)にはANAクラウンプラザホテル富山を会場に浦水会富山県支部の懇談会に出席して、大学を代表して大学の近況報告を行いました。金沢の会場では12組15名様が出席され、8件の個別面談が行われました。富山の会場では31組42名様が出席され、14件の個別面談が行われました。どちらの会場においても出席された父母の皆様はたいへん熱心に報告を聞いてくださいました。

東洋大学の近況報告については、「東洋大学の現在と未来」と題して講演を行いました。2014年に採択された「スーパードグローバル大学創成支援(SGU、英語ではTop Global University Project)」事業、それに伴う学内のグローバル化にむけた取り組み、就職活動とその成果、そして2017年4月に設置された新学部・学科、すなわち国際学部、国際観光学部(国際地域学部の学科から学部へ改組)、情報連携学部、文学部国際文化コミュニケーション学科の紹介に加え、新設された赤羽台新キャンパスを含めた全5キャンパ

スの様子等について報告を行いました。

講演で取り上げたなどの話題についても興味をもって聞いていただけたと思います。父母懇談会に出席された皆様は、学生の学業成績や今後の就職活動に関心を持って出席されていると思われませんが、それと同時に学生が学ぶ大学の現状やキャンパス環境についても強い関心を持っていることが理解できました。「スーパードグローバル大学創成支援」事業に採択され全学をあげてグローバル化を進めていること、オリンピックを含め在校生、卒業生のスポーツ分野での活躍ぶりなど、東洋大学が国の内外でプレゼンスを高め、認められていることを聞いて満足していただけると実感しました。

国際担当の副学長として講演をいたしましたので、グローバル化への取り組みについて詳しく述べる時間を取りました。交換留学の機会(協定を交換した相手大学と本学の学生を相互で授業料を免除する制度)を増やすために、海外の大学との大学間協定、部局間協定(学部間や大学院研究科間で協定を交換)によって、学生交換ができるようになり交換留学の機会が増えていくことにも言及しました。

広い視野を持つことができる交換留学をはじめとし

て、認定留学(協定校ではないが、学生が学びたいと希望する大学から短期留学が認められた場合)、協定校語学留学、国際ボランティア・インターンシップなど各種プログラムについて大変興味を持っていただきました。またこれらの留学機会を促進するための奨学金が用意されていることも説明いたしました。詳細については国際教育センターが窓口になっていることも申し添えました。

そのほかにも英語による正規授業数を増やしていること、受け入れ交換留学生数が増えていること、日本語禁止の英語コミュニケーションスペースとしてのECZ(イーシーゼット、English Community Zone)の設置、英語能力試験(TOEFL、IELTS)に特化したLEAP授業、TOEIC課外授業の開講など学生にとって学内留学の環境整備が進んでいること、グローバル化に向けたプログラムが充実してきていることに触れました。

全体を通しての質疑応答では、学生生活、成績、就職、留学などに質問が集中しました。特筆すべきポイントとしては、学生が学ぶキャンパス環境を知りたいので父母向けのキャンパスツアーの機会を作ってほしい。また、学生が参加している海外研修の内容と実態について質問があったのと、機会があれば父母にも学生が経験しているような海外研修の機会が提供されるというのではないかと要望がありました。

講演のあとや個別面談の合間に父母の皆様と自由にお話をさせていただく時間がありました。様々な要望も寄せられました。それらの声を真摯に受けとめ今後の教学運営に反映させていきたいと考えています。ありがとうございました。

平成三十年度

父母懇談会(福岡会場)に参加して

東洋大学副学長 北脇 秀敏

平成30年8月19日(日)午後ANAクラウンプラザホテル福岡で行われました地区別父母懇談会(福岡会場)に参加させていただきました。この会は、平成27年度から大学主催の父母懇談会という形式で行わせていただいておりますが、会場が福岡、佐賀、大分の三県で一カ所と少なく、ご不便をおかけしているにも関わらず、25組36名のご父兄の皆様にご足をお運びいただきましたことに対し大変感謝申し上げます。

会場では、まず大学代表として「東洋大学の現在と未来」と題して発表を行いました。東洋大学の現在の組織と5つのキャンパスの現状、5年目を迎えたスーパーグローバル大学創成事業の進捗に加え、赤羽台キャンパスの今後の展開構想などを説明しました。ご父母の方々には最近の元気な東洋大学の様子のお伝えすることができたのではないかと思います。

次に大学の就職・キャリア支援部から、「昨今の就職活動の実情と保護者の関わり方」と題し、学生とご父母の大きな関心事である就職に

ついての講演が行われました。保護者世代と現在の学生とでは選考方法が大きく異なっています。現在の学生は在学中の企業へのインターンシップを行うなど、複雑な就職活動の流れを乗り切らなければなりません。講演では大学としての学生への支援、保護者にも行って欲しい支援などが詳細に説明されました。特にUターン就職におきましては方向性を早期に決定し、ご両親や親戚の人脈を活用するとともに地元企業の情報収集を積極的に行わなくてはなりません。ご父母の皆様へのお願いですが、是非学生の皆さんが大学の就職・キャリア支援部署へコンタクトをするようご指導ください。キャリア教育等に関しましては、大学のホームページ(<http://www.toyo.ac.jp/life/5/5/>)を参照いただければと思います。

その後成績表や履修登録確認表などの見方の説明の後、ご父母と大学関係者との個別面談に移り卒業に必要な単位の取得状況などについて担当者から個別に説明をさせていただきました。

また個別面談を待たれている間、ご父母の席にお伺いして多くの方からご意見を頂戴しました。大学のキャンパスでの説明会に出てみたいとのご意見もありましたし、ご自宅を離れて生活されている学生さんの生活状況についてご心配されている方もいらっしゃいました。もし一人暮らしの生活に何かご不安を抱えているような様子があれば、学生サポート室(白山キャンパス)または学生相談室(川越、板倉、朝霞、赤羽台各キャンパス)までご連絡をいただければと思います。

東洋大学の教職員は、今後もご父母の方々からのご要望を取り入れながら、グローバル化社会で生き残れる人材を育成するために努力を続けて行く所存です。今後も父母懇談会を始め、さまざまな場面で情報交換をさせていただきますので、よろしくごお願い申し上げます。

文学部における伝統の堅持と 社会的要請への対応

文学部長 矢口 悦子

文学部は、哲学科、東洋思想文化学科、日本文学文化学科、英米文学科、史学科、教育学科（人間発達専攻、初等教育専攻）、国際文化コミュニケーションシヨシヨシ学科（英語コミュニケーションシヨシヨシ学科）は、3、4年生のみ在籍）、2部東洋思想文化学科、2部日本文学文化学科、2部教育学科から構成される本学で最も大きな学部です。「哲学館」時代からの130年を超える伝統を受け継ぐ文学部は、「諸学の基礎は哲学にあり」という学祖井上円了先生の言葉を大切に守りつつ歴史を積み重ねてきています。

東洋、西洋を問わず、大学の歴史を見てみますと、その始まりは宗教的な指導者養成や政治的なリーダー養成がめざされていますが、指導者やリーダーたる人物が身につけるべき学問とは、深く思考するための倫理学や哲学、先人の知恵を学ぶ思想、歴史や文学、それらの文書を読み解くための言語学や修辞学などの「教養」であったことが広く知られています。しかし、現在ではこうした「教養」分野は大学の世界で縮小される傾向にあり、魂を開放し自由にしていく学問を追究しても、情報処理能力やコミュニケーション能力を基盤とした職業的な能力がなければ、このグローバル化した社会の荒波を乗り越える道をなかなか見つけ出せないという現実があり、大学でも多様なキャリア教育を重視するようになってきています。

文学部においても、一人ひとりの学生の魂の自立を促す学習と、経済的な自立につながるような実践的な力量の両方を学生たちが獲得できるようにと、様々な教育活動に取り組んでいます。ここではその一端を紹介させていただきます。

まずは、1点目として、各学科が提供する教育課程そのものです。講義や演習、ゼミナール、卒業論文等を通して専門領域における最新の知識や課題をしっかりと学ぶことのできる道筋が考えられています。それは、カリキュラム・マップと呼ばれるものです。学生たちに身につけてほしい深い洞察力や探究心、物事を多面的に捉える眼力、知的な好奇心に導かれて学びを喜びと感じる力、そして現実社会の荒波を生き抜くための主体的な力、そうしたさまざまな力量の育成を目指して、工夫を重ねています。

2点目として、文学部グローバル化推進委員会を中心に企画している海外文化研修があります。一般的な語学研修とは一味違った海外の豊かな歴史や文化についての体験的な学びの機会を学生に提供しています。思想や歴史、文化や言語を専門として学ぶ学生たちが、その専門性を生かしながら海外での研修に参加し、学びと現実社会とのたゆまぬ交流を経験しているのです。さらに、西洋や東洋の歴史に造詣の深い教員を多数擁する学部の特徴を生かし、外国からの研究者による共同授業や講演会の提供なども実施しています。

3点目は、文学部教育である「東洋大学・井上円了研究」と「東洋伝統文化(TDB)プロジェクト」です。前者は、各学科から教員が参加し、オムニバス形式でそれぞれの専門性を発揮して自大学及び学祖についての講義を展開しています。後者は、日本が世界に誇る伝統文化である「能」と「狂言」、「声明」、「落語と講談」等を井上円了ホールで実際に鑑賞することを通じて、自文化への理解を深める機会を提供します。このプロジェクトでは英語で日本の文化を発信する力をつけることも含んでおり、留学生にとっては日本の伝統文化に触れる貴重な体験学習の場となっています。

4点目は、学部独自のキャリア・就職講座の提供です。各学科の先輩を講師に招いて大学での学びがどのように職業生活を支えているか、学生と懇談の形でお話していただく機会や、各種業界の専門家による講演会などを企画しています。

以上のような多様な学びの機会を提供することで、学生たちが自らの立つ基盤を深く掘り下げて考え、多様な価値観を持って生きる人々の文化を理解する柔軟性を身につけ、そして、柔軟でタフな精神力を獲得できるように、働きかけを続けてまいります。



矢口 悦子

文学部教授

御茶の水女子大学卒業。
同大学院人間文化研究科（博士課程）満期退学。
博士（人文科学）。専門は社会教育学・生涯学習論。
著書に『イギリス成人教育の思想と制度—背景としてのリベラリズムと責任団体制度—』等。

学生の主体性を育む 経済学部のゼミ活動

経済学部長 小川 芳樹

学生の主体性を育む活動として、経済学部が最も力を置いているのは、1年から4年までのゼミ活動である。経済学部のゼミ活動は、卒業して社会へ船出するために必要ないろいろな力を学生が主体的に育む大きな基盤の1つである。本稿では、各学科の専門ゼミ（2年次以降）に関して代表的な活動（各学科1例）を紹介したい。

（1）経済学科：安田ゼミの活動

経済学科に関して紹介するのは、中小企業論を専門分野とする安田武彦教授のゼミである。安田ゼミでは、企業や役所を訪問して経営者や政策担当者に学生が直接インタビューすることで、日本の中小企業がどうなっているか、真剣勝負の実態把握を行っている。机上の調査とは異なる事前準備、結果発表を伴う現地調査は学生にとって非常に良い実践の場となっている。

写真①は今年7月に発効された図解要説『中小企業白書を読む』の表紙である。安田ゼミでは、毎年発表される『中小企業白書』を学生が読み解いて、2008年からすでに11回にわたってこの図解要説を作成してきた。大部の『中小企業白書』を精読し、その年の特徴を分かり



写真①：『中小企業白書を読む』

易くまとめあげて、成書として出版する作業は、各年の学生にとってかけがえのない経験といえる。

（2）国際経済学科：佐野ゼミの活動

国際経済学科にして紹介するのは、国際的な食料・農業問題を専門分野とする佐野聖香准教授のゼミである。「現代の世界・日本の食料・農業問題」をテーマとする佐野ゼミでは、ゼミ活動の1つとして、家庭にある食品を持ち寄り、必要な方々に寄付するフードドライブの実践的な活動を学内で展開している。



写真②：カンボジアのマングローブ植林事業への参加（ゼミ海外研修）

また、写真②は、食料からみる先進国と途上国の関係という問題意識を掲げて行ったゼミの海外研修「カンボジアのマングローブ植林事業への参加」における学生の様子である。途上国へ実際に赴いて現地の実情を肌身で実感することは、学生にとって容易には経験できない貴重な機会となっている。

（3）総合政策学科：澁澤ゼミの活動

総合政策学科に関して紹介するのは、情報システムを専門分野とする澁澤健太郎教授のゼミである。澁澤ゼミでは、経済学を実経済に照らして考え学ぶゼミと位置付けて多様なゼミ活動を展開している。毎週のゼミでは、プレゼンやディベートなどが中心であるが、為替ダービーなどにも積極的に参加している。

また、15年以上もゼミの海外研修を毎年継続的に実施してきたこともゼミ活動として特筆に値する。写真③は、那須塩原市の活性化プレゼン大会で学生の提案がグランプリに輝いたときのものがある。このように、澁澤ゼミの学生は多様な活動へ参加する中でかけがえない経験を積み重ねている。



写真③：那須塩原市活性化プレゼン大会でグランプリ獲得

（4）終えるにあたって

本稿ではゼミ活動3例を紹介したが、経済学部ではこの他にも多様なゼミ活動が実施され、学生の主体性を育んでいる。なお、上述のゼミ活動を対象に、澁澤健太郎教授と佐野聖香准教授は、今年から始まった第1回目の優秀教育活動賞の荣誉に輝いたことを付記させていただく。

7月8日に新潟をお訪ねして、浦水会の地区別父母懇談会で保護者の方々と意見交換を行う機会があったが、学生がゼミ活動に参加するのとは異なる点では、4年間の学生生活に大きな違いが出ることを、この時も詳しくお話しさせていただいた。



小川 芳樹

経済学部教授

東京大学大学院理学系研究科

科学博士課程修了 理学博士（東京大学）

（財）日本エネルギー経済研究所勤務を経て、

2004年から経済学部教授、環境経済学専攻

趣味は歴史もの・ファンタジーものの読書、スキー、

クラシック音楽鑑賞

経営学部生の 主体性を育む取組について

経営学部長 長島 広太

大学教育において、教員が講義を中心に進める授業は知識や方法論を効率よく学ぶ方法の一つとして行われてきています。それと同時に、最近ではPBL (Project Based Learning)、反転授業などいろいろな授業形態が話題になっていきます。

経営学部においてもつとも学生の主体性を育む授業として「演習(ゼミ)」をまず挙げることが出来ます。1クラス10数名という少人数であることだけでも、学生の積極的な参加が求められます。それ以上に、自分や自分の属するグループで研究するテーマ自体を自ら設定することも必要になる場合があります。教員に与えられたテーマではなく、自分でテーマ設定をするためには、講義科目で培った知識や方法論を総動員して、さらに新しい文献を探索して、ひらめいたテーマについて、グループの場合には相互に検討しあうというプロセスが最初にあります。メンバーの前での発表に堪えるテーマを設定するだけでも容易な事ではないようです。良いテーマと思っても、進めてみると陳腐だったり、困難だったり、自ら良いテーマを設定することが、学生の主体性を育む大きな部分となっています。このとき、教員は具体的なテーマそのものを学生に提示することはしないで、自らの力で設定できるように助言をするという立場をとっています。

研究テーマが決まりますと、実際に研究するわけですが、関係する文献を探し出して、仮説を作

るということもあります。講義では教科書や参考書が指定されていることもあります。しかしながら、演習では、何を読むかも自らが判断しなくてはなりません。研究にはいろいろな方法が考えられ、現地に実際に足を運んで観察すること、関係者にインタビューをすること、アンケートをする方法などもあります。それらを活用して実際に研究成果が出た場合に、その意味づけや応用についても考えていくことになります。いままで未知と思われてきた世界について、自らで地図を作っていくようなことといえるでしょう。

このように自分で問題を見つけ出し、それを自ら解決するという過程において学生の主体性が求められるため、必然的にそれが育成されることになります。結果として社会人基礎力を高めることになり、経営学部ではこのような観点から演習を重視しています。演習の研究成果を報告する経営学会研究発表大会や他大学の演習との交流なども実施しています。

専門科目における、2年生の基礎演習、3・4年生の演習だけではなく、基礎教育(一般教育)における演習科目も用意されています。

演習を通じて卒業論文を書き上げることが一つのゴールとなるはずですが、大学生活のスタートにあたる1年生には、基礎実習講義という科目を必修としています。初年次における大学教育への導入教育の一環として、大学の講義を受講するの

に必要な知識や技法などをそれぞれの学科の特性に応じて学ぶ機会としています。

就職の準備については、全学のキャリア支援課主催の様々な企画とともに、経営学部および各学科でそれぞれの特性に応じた企画を提供しています。演習を履修しなかった学生にとっても、エントリートメントの個別指導をする機会を設けている学科もあります。

経営学部では公認会計士、中小企業診断士、税理士、ファイナンシャルプランナー技能士、統計検定、証券アナリストなどの資格取得のための講座などを用意しています。これらは課外のもので多く、学生は自らの意思で参加をして、資格を取得しています。

学生への様々なアンケートや授業時の発言などから、学生の主体性を育むための様々な機会を用意することによって、将来の人生の糧となるようにカリキュラムなどを常に見直して、最適なものを提供できるようにしています。東洋大学経営学部を卒業して良かったと思ってもらえるように、一層の努力をして参ります。浦水会の会員の皆様には一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



長島 広太

経営学部教授

早稲田大学商学部卒業・同大学大学院
商学研究科博士課程満期退学。
早稲田大学商学部助手、東京国際大学教授を経て
2008年から本学経営学部教授。
マーケティング専攻。インターネットを活用した
マーケティングを研究している。
日本ダイレクトマーケティング学会副会長。

法学部における学生の主体性を 育む取り組みについて

法学部長 井上 貴也

(1) はじめに

法学部では、様々なプログラムを通して学生の主体性の育みを支援しております。これから紹介をさせていただく取り組みは、東洋大学の三つの柱である「国際化」「キャリア教育」「哲学教育」にも合致するように組み立てられています。さらに法学を学習する上で学生のモチベーションを高めるプログラムも用意しております。是非、積極的に活用していただきたいと思っております。

(2) 国際化に関するプログラム

学部独自の取り組みとして三つ海外研修を実施しています。まず、イギリスのロンドン大学が実施する「夏季英語音声学セミナー」です。このセミナーは、英語の発音・聴き取り技術の向上に主眼を置いた二週間集中プログラムで、英語音声学の理論と実践を学ぶことができる内容となっています。つぎに、ドイツ・ミュンヘンで行われる語学研修です。異文化コミュニケーション協会がミュンヘン大学と合同で設置する語学研修への参加を通してドイツ語の能力を高めるプログラムです。ドイツ語と併せて法律の学びも深めることができるのが特徴です。最後に、ノルウェーのトロムソ大学における平和学研修があります。現地大学における英語の講義を通して、教育・社会経済発展および平和に関する幅広い知識、視野を身に付けることを目的としています。

(3) キャリア形成に関するプログラム

学部独自のキャリア支援の取り組みとしては、

「公務員対策講座」があげられます。法学部を目指す学生には将来、公務員を志す者が多くいます。学生の経済的負担を軽減しつつ、勉学の環境を整えるために予備校と提携した対策講座を設けています。法学部の学生が公務員合格というゴールを目指し、時には互いに励まし合いながら、切磋琢磨する環境が整えられています。

これ以外にも、学部独自で、実務家（卒業生）による講演会、就活始動セミナー、内定者による就活アドバイス等を行い、就職活動を迎える在校生をサポートしています。

(4) 哲学教育に関するプログラム

「井上円了と建学の精神」は第一部、第二部ともに一年次必修科目として開講しています。創立者である井上円了博士の思想と建学の精神を学ぶことを目的としています。教室での学習だけではなく、円了博士が「哲学をテーマにした精神修養」の場として創立した中野区にある哲学堂公園を見学し、哲学に直接、肌でふれて考える機会も設け、学生の主体的学びの場を提供しております。

(5) 専門教育に関するプログラム

法学部では成績優秀者、検定試験や資格試験で一定の成績を修めた学生を表彰する学部長表彰制度があります。学生のモチベーションを高める効果と下級生には先輩たちの努力する姿を見せることにより努力目標として意識してもらうことにあります。一方で、一定の単位取得基準を充たせなかった学生を対象にした単位僅少者面接を各セメ

スターに行っています。

右以外にも、法学部長杯争奪法律討論会、法学部長杯争奪ゼミ発表会、中学生および高校生を対象とした主権者教育への学生参加を通して、法学学習の実践や社会還元の場合も提供しております。

(6) おわりに

本年度、白山キャンパスおよび兵庫県および大阪府で開催された父母懇談会に参加をさせていただき、保護者の皆さまと直接お話をさせていただきました。七月七日、兵庫県地方は大雨特別警報が発令されている中での開催となりました。お足元の悪い中お出かけをいただきありがとうございました。お話をさせていただき、保護者の皆さまの大学に対するご期待の大きさを実感させていただきました。身引き締まる思いでありました。

今後とも雨水会会員の皆さまの温かいご支援・ご協力をお願い申し上げます。

※14（とーよーめーる）について

法学部では、法学部と保護者の皆さまとつながりコミュニケーションツールとして、毎月一四（とーよー）日に連絡用のメールマガジンを配信しております。メールマガジンの登録については以下のアドレスから手続きを行ってください。
<http://toyodai.gakuhou.gakubu.renrak.mob/>



井上 貴也

法学部教授

東洋大学大学院法学研究科私法専攻博士後期課程満期退学、法学部講師、助教授、准教授を経て二〇〇八年四月より教授。
趣味は、鉄道を利用した旅行、法律史跡めぐり。
専門は、商法、会社法

社会学部における 学生の主体性を育む取り組み

社会学部長 大島 尚

社会学部の教育の特色として、実習を重視していることが第一にあげられます。これは、60年近くの学部の歴史の中で、一貫して保たれてきました。中心を担ってきたのは社会調査の実習で、社会におけるさまざまな問題を学生自らが設定し、客観的・実証的にとらえるための調査を自ら計画して実施し、報告としてまとめるという作業をおして、学生の主体性を育む教育を実践してきました。現在では、学部共通の社会調査に加えて、学科ごとにさまざまな実習教育を行っており、問題設定から研究の実施、成果の公表まで、教員からの指示を極力抑え、学生の自主的な活動を促すことで、主体性を育む教育を実践しています。

たとえば社会学部では、フィールドでの活動を重視しており、福祉施設はもとより、厳しい状況に置かれた子どもたちへの学習支援、被災地における復興支援、余暇を持て余す障がいのある人たちとの活動、元気な高齢者たちとの地域づくり、営利企業が展開する社会貢献活動など、幅広いフィールドで学生たちが学びを展開しています。これらの活動では、学生が自ら進んで関わりたい活動に飛び込むことで、生き生きと学習することができています。そのような経験は学生の主体性を育み、大学生活全般に肯定的な影響を与えています。また、社会学部のイブニングコースでは、起業に関連する外部講師を招聘して社会人基礎力の涵養につなげる試みや、「働きながら学ぶ」

というプロジェクトで学生が社会福祉法人、福祉系企業などで働いて生活の糧を得ながら、主体的に学習するという試みも実施しています。

社会文化システム学科でも、「社会文化体験演習」などの授業で、現場での学生間・学生と教員間の協働学習を通して学生の主体性と自信、多文化社会に生きる力を高める取り組みを重ねています。

メディアコミュニケーション学科では、独自の「HITS（白山インターネットTVステーション）プロジェクト」を実施しており、文京区白山およびその周辺の地域情報を中心として、学生が企画、取材、編集した情報コンテンツ（作品）を学外へ向けて継続的に発信するという活動を行っています。このプロジェクトは、主に1年生を対象とした自主的な課外活動で、学科教員は学生が主体的に企画から学外者との取材交渉、作品の完成までを行えるようにサポートしています。また、大学の予算支援を受けた「新聞活用プロジェクト」では、朝日新聞・読売新聞のどちらかを1年生全員に1年間講読させ、また授業の中で新聞社からの講演者の講演を聴かせることもあり、それらを材料として社会やメディアに関するさまざまなトピック・話題について主体的に議論や考察を行わせています。また、希望者を朝日新聞社・読売新聞社にインターンシップに行かせるという試みも実施しています。さらに、学科主催の就職活動支

援講座を年に2〜3回開催し、卒業生、メディア・IT関連企業、就活が終わった4年生などに、メディア・IT関連の採用動向や企業が求める人材、就職活動の現状などについて講演してもらっています。この支援講座を通して、卒業後の進路について主体的に考えさせ、卒業生・企業と積極的に交流する機会を設けています。

社会学部では、特に初年次教育に力を入れており、1年次の基礎演習において、学生一人一人に対して主体的・積極的に学ぶ姿勢を育成する取り組みを行っています。また、学科独自の体験実習科目が1年次から開講されており、学生は少人数のグループで実験を計画し実施するように構成されています。実験実習を通して社会心理学の研究に関心を持ち、自主的・主体的に学ぶ意欲が高まることを意図しており、最終的に卒業論文の執筆へとつながっていきます。

社会学部では卒業論文を必修としており、自分の追究したいテーマを自分で探して、自信をもって書き上げられるように、ゼミで4年間をかけて導くように心がけています。



大島 尚

社会学部教授

1975年東京大学工学部計数工学科卒業、1978年東京大学大学院人文科学研究科心理学専攻博士課程中退。文学修士。1978年東京大学文学部助手、1985年東洋大学社会学部専任講師、1988年助教、1995年同教授となり現在に至る。

教務部長、国際交流センター長、大学院社会学研究科長などを歴任。認知心理学、社会心理学を専門とし、情報システムと人間、対人関係とコミュニティ意識、価値観の文化差などの研究を行ってきた。現在は、人工知能の社会的意義に関心を持っている。

学生の主体性を育む国際学部の 教育プログラム

国際学部長 荒巻 俊也

1. 学生の主体性と本学部の教育活動

国際学部は、経済、貧困、環境、紛争などさまざまな課題が発生しているグローバルな社会において、地域の多様性とさまざまなグローバル・システムとの関連性の理解に基づいて、経済、社会などのさまざまなシステムに変革（イノベーション）を起こしうる人材を育成する「グローバル・イノベーション学科（以下、GINOS）」と、多様な地域における課題解決と自律的な発展に貢献しうる人材を育成する「国際地域学科（以下、RDS）」の2学科体制で昨年4月に開設されました。グローバルな社会におけるさまざまな課題に対して、実践的な活動を展開できる人材の育成を目指しています。

学生が卒業したのち上記のような実践的な人材として活躍してもらうために、グローバル社会やそして地域の諸問題に対する知識とそれを分析する能力、異文化環境におけるコミュニケーション力の他、課題解決に向けた実践的能力やイノベーションを構想・推進していくための構想力やリーダーシップ力を磨くことを本学部の教育目標としています。とりわけ、実践的能力や構想力、リーダーシップ力は主体性が前提となっており、両学科で行われるさまざまな教育活動は主体性を育むことを前提としたものとなっています。

例えば、GINOSやRDSの国際地域専攻に在籍する日本人学生は、それぞれ1年間および5週間の留学プログラムに参加することが義務付けられています。日本から離れて異文化環境で生活していく中で学生は自ら考えて行動していくことが必要となり、おのずと

主体性が身につけていくこととなります。この他にも両学科において、さまざまなユニークなプログラムを実施しておりますが、そのうち2つを取り上げて以下で紹介したいと思います。

2. GINOSにおける演劇ワークショップ

GINOSでは、「Travel（旅して）、Play（演じて）、Dialogue（対話する）」というキーワードのもと多彩な教育活動を展開しておりますが、その一つとして創造性（Creativity）を高める実践的演習として「演劇ワークショップ」を実施しています。これは、イギリスで活躍されている女優・山中結莉さんをお迎えして、演劇を通じて「伝える」より「相手へ伝えること」を学ぶことを目的として開催しています。

昨年8月の予備ワークショップ、さらに今年2月12〜21日のワークショップには、延べ30名の学生が参加し、参加者自身が主体的に演じることに、相手に伝わるためのさまざまな方法を実践的に学びました。



演劇ワークショップの様子

3. RDSにおけるプロジェクトスタディーズ・ワークショップ（PSワークショップ）

RDSでの学びのベースになるのは「Think Globally, Act Locally = Globalization from the Bottom Up. 「地に足の着いたグローバルを！」という言葉であり、国内外での調査型研修やインターンシップ、ボランティアなど実践型のプログラムを充実させ、多くの学生が履修できるようにしています。

今年の6月21日に、このような実践型プログラムに参加して成果を挙げた学生の中から選ばれた学生がその成果を報告する「第1回PSワークショップ」を井上円了ホールで開催しました。国際地域学科学生約500名が集まるなか、実際の社会で実践をするうえでの難しさや自身の成長について、6組の学生がそれぞれの経験をもとに語ってくれました。さらに、その中から最優秀発表賞をみんなで見出されるとともに、各発表に対する学科教員からの講評を受け、それらの活動の意義を改めて確認し、共有することができました。



PSワークショップの様子

荒巻 俊也

国際学部教授
東京大学工学部卒
同大学大学院工学系研究科博士課程修了
博士（工学）
2008年国際地域学部着任
専門は環境科学・環境工学



学生が主体的に学ぶための 取り組みについて

国際観光学部 部長 飯嶋 好彦

個人的は昔話からの書き出しで恐縮です。私が中学校に入学したときの最初のホームルームで、クラス担任が黒板に大きく「勉強」と書き、この意味がわかるかと尋ねました。私は、この質問に対し、「小学生ではあるまいし、この教師はいまさら何を聞きたいのか」と訝しく思ったことを鮮明に覚えています。

このクラス担任は私たちに、「強いて勉めること」と、つまり、「やりたくないことを無理してでも行うことが勉強だ」と言いたかったのです。私は、この説明を聞き、「なるほど勉強とはそういうものか」と納得しました。しかし、生来怠け者の私には、担任の教えに従うことがきず、怠け癖が出ると机のまえに座ることが苦痛になり、「座る」という練習から始めたことがたびたびありました。一方、東洋大学に奉職し教師になったとき、「教師なのだから教えなければならぬ」と感じていました。ところが、数年経ったとき、「教師が一方的に教えるから学生は学ばないのだ」と気づきました。

確かに、教師は、教えることを生業にする職業です。しかし、教える（＝動作の出し手）と学ぶ（＝動作の受け手）の関係が固定化すれば、学生は常に受け身になり、自分から学ぶ姿勢を養うことができません。教師の職務は、学生が学ぶための道程づくりであると気づいたので、主

体的に学べるわけではありません。むしろ、前述した「勉めて強いる」ことにより、学びの姿勢をつくりだす必要があります。そこで、当学部では、宿題や自習課題を多く出すことで、この姿勢づくりを行っています。また、当学部では、2年次に5つの専門分野に分かれ学習しますが、その5分野に定員を設け、成績順に定員まで希望者を受け入れるという方式を導入しています。この方式により、1年次に勉強する習慣を確立したいからです。

一方、知識を与えても多くの場合、時間の経過とともに廃れ、忘れられてゆきます。それでは、主体的な学びに直結しません。知識は、応用することによって深みが増し、さらなる知識を得たいと感じるようになります。

それゆえ、当学部では、「理論と実践との融合」を教育の基盤に据え、座学だけでなく、観光が生起する「現場」で学ぶことを学生に奨めています。例えば、レストラン経営の一分野に、「メニュー企画論」という授業があります。マーケティング知識を応用しながら、料理を企画し、コスト計算しながら、販売する商品を考案するという授業です。

ビジネスの世界では、企画された商品は、メニュー冊子に掲載され、顧客に提示されます。ところが、いざメニューを作成するとき、どのような順番で商品を展開すべきかが、わかりません。

その手法を解説する書籍がなく、そのノウハウは企業内に蓄積され、私たちが見聞できないからです。しかし、メニュー冊子の作り方がわからなければ、メニュー企画論という授業を行っても画龍点睛を欠きます。

そこで、私たちは学生に対して、レストランの現場を訪ね、実際のメニュー冊子の構成がどのようになっているのか、顧客がどのような手順でメニューを見ているか観察して来なさいと指導しています。

観光は、現場があつて初めて成立する学問であり、現場を知ることが不可欠です。ですから、私たちは、1年生全員を海外に連れ出し、国際観光の現場を皮膚感覚で体験させています。また、インターシップやフィールドワークなどを積極的に推進しています。

そして、その現場で感じた疑問を教室に持ち帰り、その疑問を質問という形式で教師に問いかけたり、個人的に詳しく調べ直したりすることができれば、勉強に興味を抱くと思われ、また主体的な学びにつながると考えています。

論語に、「学びてときに之を習う」という一節があります。これに対して、「見聞してこれを習う」という手法が、私たち国際観光学部の主体的な学びに必要なのではないかと、私は考えています。



飯嶋 好彦

国際観光学部教授
 東京大学卒業
 横浜市立大学大学院経営学研究所
 後期課程単位取得満期退学
 京浜急行電鉄株式会社勤務を経て
 1999年 短期大学観光学科擔任
 2001年 国際地域学部転籍
 専門はサービス経営学

東洋大学情報連携学部 INIAD

「イノベーションを起こせる人材を育成する」

東洋大学情報連携学部 INIAD 学部長 坂村 健

文・芸・理の融合とは

現在、新たな情報の時代が到来して、学間においても従来の文系や理系という考え方で分けるのが難しい中間領域が多く生まれています。そして、そこがイノベーションの主体になっています。たとえば最近ビジネスの分野で、フィンテックというものが大変話題になっています。これは「ファイナンス」と「テクノロジー」を融合させた新しい造語です。コンピュータネットワークやインターネットを駆使した金融の考え方で、その範囲には当然電子マネーとかビットコインのようなものも含まれます。このような技術が登場することにより、経済学などもこれまでとはまったく違った新しいモデルを創ることが期待されています。また、シェアリングエコノミーが世界的にも注目されていて、たとえば運輸業ではUberがタクシীরあり方をまったく新たなものに変えようとしています。

今、世界はものすごく大きな変化の渦中にあるといえます。従来の学問分野はネット社会誕生以前に作られたものですので、これだけではこれらをカバーできません。そこで今こそ新たな学問の体系を打ち立てることを目的としているのが情報連携学部(INIAD)なのです。コンピュータサイエンスやエンジニアリングが中核となりますが、その中にビジネスやデザイン、そしてシビルエンジニアリングといったイノベーションに関わりの深い分野を含め、それらを再構築して新

たな学部を創っています。

たとえば、データサイエンスという新しい学問が登場しています。IoT時代の現在、リアルで着実なデータが大量に集まってきました。人間の経験と勘で動かしってきたこれまでのビジネスとは異なり、IoTやオープンデータの技術を使いデータを収集し、それを、人工知能や機械学習といった技術を使いコンピュータに解析させる。このことによって新しいイノベーションが起こせるようになっていくのです。

新しい時代の「デザイン」とは

現在では3Dプリンタの登場により、昔とはまったく違った方法で物を作ることができ、製品開発はますます容易になっています。考えているものを制約なく形にすることができるよう、デザインとは何かを再考する必要があります。また、コンピュータのユーザーインタフェースの考え方も大きく変わってきていて、いろいろなユーザーインタフェースがスマートフォンなどに集約されるようになってきました。単に画面操作だけでなく、音声認識、位置認識、モーション検出などさまざまな技術を駆使して、よりよいユーザーエクスペリエンスを作り上げるといって考えています。

シビルエンジニアリングも進化する

従来は、シビルエンジニアリングというと、主にインフラをつくるのがベースでした。都市や街をつく

るときに、道路や上下水道をどう引くかということはもちろん重要です。しかし、先進国でそういうものが当たり前になると、次に重要になってくるのはクオリティオブライフです。コミュニティをどう形成するのか、少子高齢社会にどう対応していくのか、また、都市と地方の格差をどのように解消するのか。これらの課題を、これからは前面に打ち出していかなければなりません。

新しいコンピュータサイエンスの時代

コンピュータサイエンスに関しては、大型コンピュータにバッチ処理の時代からタイムシェアリングシステムの時代、パーソナルコンピュータの時代、そしてネットの時代、クラウドコンピュータの時代になってきています。ネットの時代では、クラウドとエッジで処理をどのように分担させるかといった研究が必要になります。また、これからのIoTの時代では、従来の情報処理の技術と組み込み技術が融合するという時代になります。

このように、学問の枠組みそのものが大きく変化するという時代に、従来の教育システムのままではなく、その変化に対して新たな挑戦をしようとするのがINIADなのです。



坂村 健

1951年東京生まれ。工学博士。2017年度よりINIAD(東洋大学情報連携学部)学部長。東京大学名誉教授。専攻はコンピュータ・アーキテクチャ(電脳建築学)。1984年からTRONプロジェクトのリーダーとして、オープンなコンピュータ・アーキテクチャを構築。現在、TRONは携帯電話をはじめとして家電製品、デジタルカメラ、FAX、車のエンジン制御など世界中で多く使われており、IoT(Internet of Things)環境を実現する重要な組込みOSとなっている。2002年1月よりYRPユビキタス・ネットワーク研究センターを兼任。
2015年 ITU(国際電気通信連合)創設150周年を記念して、情報通信のイノベーション、促進、発展を通じて、世界中の人々の生活向上に多大な功績のあった世界の6人を表彰する中の一としてITU150Awardを受賞。IEEEライフ・フェロー、ゴールドンコアメンバー。第33回市村学術賞特別賞受賞。2001年武田賞受賞。2003年紫綬褒章。2006年日本学士院賞受賞。

ライフデザイン学部の 「現場主義」と「実践主義」

ライフデザイン学部長 齊藤 恭平

浦水会の皆さまには、日頃より学部の教育に対してご理解とご協力をいただいておりますこと、心より厚く感謝申し上げます。皆さまもご存知のとおり、ライフデザイン学部は今年で14年目を迎えます。我が国がこれから直面する少子高齢人口減少社会において、豊かなQOLを創造する使命を持った学部です。学部には生活支援学科（生活支援学専攻・子ども支援学専攻）、健康スポーツ学科、人間環境デザイン学科があります。それぞれが独立した学部としても成り立つような、個性と独自性を持っています。これらが融合して、高齢者対策や子育て、健康づくり、まちづくり等を創造していくことの意義は大きいものがあります。学部の性質上、人間や地域社会と直接に関わる機会が多く、キャンパスの所在する地元自治体である朝霞市との包括協定を結ぶなど、地域と密着した教育や研究、そして社会貢献等が展開されております。

朝霞市との関係の中では、多くの教員が各種行政委員会の委員長やアドバイザー等がかかわりを持たせていただいている他、市民講座の講師等も担当しております。また、大学の施設を開放しての「子ども大学あさか」「放課後キャンパス」「子育てサプリー」「健康スポーツ倶楽部ASAKA」「Keep Active」等の社会貢献活動も

実施しております。これらの活動には必ず学生が参加しており、このことが学生の専門性の習得や学習意欲の向上、そして何よりも主体的意欲の涵養に役立っていると感じております。加えて、授業や実習・演習のフィールドとして、朝霞市内の環境や施設を使わせていただき、学生が住民の方や専門職または多くの関係者の方々との接点持つことによる教育効果は絶大なものと評価しております。

一方で、学生と教員が地域とかかわる活動は地元自治体だけにとどまらず、東京都北区や川越市、飯能市、南会津、遠くは青森県深浦町、北海道今金町など、挙げればきりがなく多く実施されております。最近では大学のグローバル化に伴い海外でのアクティビティも増えてきております。おそらくこれらの実践は、ライフデザイン学部教員のもつ教育精神の支柱にある「現場主義」や「実践主義」に根ざすものであり、このことがライフデザイン学部の最大の特徴であるとともに、教育的な強みであると捉えております。

お時間がありましたら、ぜひ一度大学のホームページをご覧ください。ライフデザイン学部の取り組みをご覧いただきたく存じます。とくに各学科や専攻ではニューズレターを掲載しておりますので、その中で、今回ご紹介申し上げた活動がタイムリーにご覧いただけることと思います。

さて、皆さまには既にご承知の方も多いかと思いますが、2021年にライフデザイン学部は東京都北区赤羽に移転をいたします。この赤羽台キャンパスには既に情報連携学部が昨年度より設置されておりますが、その隣の敷地に移転が決定しております。さらに2023年にはライフデザイン学部を改組し、福祉系学部と健康スポーツ学部、二つの新学部をつくることと決定されております。北区は少子高齢が急速に進み、様々な課題を抱える地域です。このような地域に移転することにより、ライフデザイン学部、そしてその後の2つの新学部は多くのミッションをいただくことになろうかと考えております。このミッションを完了するための、様々な取り組みに対して学生を参加させることにより、少子高齢人口減少社会を生き抜ける力と、創造的に切り開いていける能力が学生に備わるものと期待し、信じております。今後ともライフデザイン学部の取り組みに対してご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



齊藤 恭平

ライフデザイン学部教授

1960年 函館市生まれ。
1984年 順天堂大学体育学部（現スポーツ健康科学部）健康学科卒業
1986年 同大学院体育学研究所修士課程修了
2012年 博士（医学）学位取得
1986年 順天堂大学助手
1995年 函館短期大学講師～助教授～教授
2007年 東洋大学ライフデザイン学部健康スポーツ学科教授
2017年 同学部 学部長
専門は健康社会学・ヘルスプロモーション
地方自治体の健康増進計画策定や健康づくり事業の企画立案評価等が専門。
東京都北区オリンピック・パラリンピック・リレーションシップ会議 座長
東京都板橋区文化国際交流財団 理事
飯能市健康体づくり市民会議 アドバイザー
北海道健康づくり協会 監事

先端的な科学分野を創造的に 切り開く人材育成

理工学部長 寺田 信幸

理工学部の学生の皆さんには、入学時に「人はなぜ学ぶのか？」をしっかりと考えてみて頂くようお願いをしました。学ぶのは、単に知識を得るためでも、職を得るためでも、地位を得るためでも人に教えるためでも、人から尊敬されるためでもありません。自分自身を磨くためです。自分を磨くのは、人々のために働くことができるようになるためであり、そのことを自覚して学業に励み、様々な体験を積むのが東洋大学の心でもあることをお話しました。多様な価値観を学習し理解することにより、自己の哲学（人生観・世界観）を持つようになる、先入観や偏見にとらわれず、物事の本質に迫り、論理的・体系的に深く考えられるようになって頂きたいと願っています。

2020年東京オリンピック・パラリンピック向け競技用国産カヌーの開発

流体力学、バイオミメティクス、人間工学、日本の物作り技術、素材、船作りなどに関わる異分野の技術者および専門家が集まり日本人に適した国産カヌーを開発し、日本人選手に金メダルを獲らせる。そんな夢を実現すべく国産カヌー開発水走（みつは）プロジェクトをスタートさせました。現在競技用カヌーは、主に東欧の限られた国々で開発されています。そのため欧米人の体格に合わせ、選手や職人の経験を元に作られています。そこで本学では、大学が研究成果により得られて

きた「知」と企業が有する「技術」を融合させ、世界のトップを目指せる日本人の体格に合わせた船艇の開発を産学連携により、学生の皆さんと共に進めています。

本プロジェクトで開発するカヌーは、急流の中で関門を通過するスラローム競技用です。そのため船艇には、高い直進性と旋回性が求められます。そこで設計には、生物の優れた機能を生かしてづくりを進める「バイオミメティクス」により高い旋回性、「流体力学」により川の流れを生かした高い直進性、「人間工学」により日本人に合ったコックピットを実現しました。これをレーシングカーにも用いられるCFRP（炭素繊維強化プラスチック）により、軽く強い船艇を産学連携により製作しました。この船艇を「水走（みつは）」と名付け、現在までコンセプト艇（0号艇）、試作艇（1号艇）の開発をしています。この様な取り組みを通し、広い基盤的な理学的知見を持って、先端的な科学分野を創造的に切り開く人材育成につなげたいと考えています。

理工系グローバル人材の育成

グローバル展開をしている企業に対して、学生の皆さん自身が感じている敷居の高さを払拭して、海外への興味を持って頂き、世界に目を向けてもらい、異文化理解や協調性を獲得して頂きたいと考えています。また、スーパーグローバル創成事

業を意識して入学した学生の皆さんにも満足して頂けるよう、海外留学が出来る水準へと引き上げられる学習の場を提供しています。全学TGLプログラムに連動した各種プログラムやイベントを実施するとともに、川越キャンパスの3か所を用意したグローバルコミュニケーションスペース（GCS）では、ディスカッションクラブ、英語初級ミニ講座など独自講座を開講し、留学生との交流イベントや海外の記念日に関連したイベントを開催しています。MOOCsやTEDなどインターネットで配信されている優れた英語での教材を利用して学習環境を整備し、適切にフォローすることで自主学習の定着を図る支援体制も整えま

した。

「わくわく」しながら目的意識をもって熱中できるものに学生の皆さんが出会えるよう、いろいろな興味・関心を持った学生さん達の心に響かせるため、さまざまな取り組みでアプローチし、若い皆さんが、日々、生き生きと輝き、明るく微笑みを持って取り組める環境を創出していきたくと思っています。これらの取組には各方面の多くの皆様の叡智が不可欠です。何卒、ご指導、ご協力、ご支援賜りますようお願い申し上げます。



寺田 信幸

東洋大学理工学部生体医工学科教授

1952年大阪に生まれる。1976年に東邦大学理学部生物学科を卒業。1976年信州大学医学部附属病院、1978年国立循環器病センターを経て、1982年山梨医科大学生理学講座に助手として赴任。1992年に博士（医学）取得（山梨医科大学）、同年山梨医科大学医学部助教授。大学統合で2002年山梨大学総合分析実験センター助教授。2005年4月より東洋大学工学部機能ロボティクス学科教授、2009年4月東洋大学理工学部生体医工学科教授。2012年より学校法人東洋大学理事、2015年4月より理工学部長。専門分野：生体工学、環境生理学（循環生理）、宇宙医学、医療情報

総合情報学部における学生の 主体性を育む取り組みについて

総合情報学部長 土田 賢省

今後の高等教育機関が直面する社会変化の方向のキーワードとして、「SDGs（持続可能な開発のための目標）」、「Society5.0・第4次産業革命」、「人生100年時代」、「グローバル化」、「地方創生」が挙げられています。これらの問題に対応するために、中教審の中間報告では、これからの高等教育では、「文系・理系の区別にとられない、新しい教育にも対応した教育」、「分野を越えた専門知や技能を組み合わせた教育」、「個々人の「強みや卓越した才能を最大限に伸長する教育」が必要になると述べられています。また、日本学術振興会顧問の安西祐一郎氏は、「日本で学ぶ生徒・学生にとって最も大事なものは「主体性」であり、「主体性とは、自分の目標を自分で見だし、実践する力」と言っています。

総合情報学部は、2008年に情報を核とした文理融合の学部として発足しましたが、さらにこのような新時代のニーズに応じた文理融合教育の実践に取り組んでいます。

以下、本学部における学生の主体性を育む取り組みについて学年別に説明します。

(1) 1年次…情報の基礎力養成&独自の学びの目標設定

文系入試で入った学生と理系入試で入った学生を全く区別せず、総合情報学科の学生として同一に教育します。情報の基礎力養成のために、必修科目でITパスポート試験合格に向けた勉強をし

ます。毎年、1年生で100人以上の合格者を出しています。また、1年次は、2年次でのコース振り分けの準備期間として、各コースの専門の基本的科目を履修した上で、自分で将来の目標を設定し、コースを選定するとともに、その学びの準備をします。

(2) 2年次…自分の選んだコース/専門分野における基礎固め+学際的な学び

各コース内で、自身の学習目標を定め、対象となる専門領域を深く学びます。学際的素養を獲得するために、同時に他コースの学問領域も幅広く学びます。

・システム情報コース

経営がわかるシステム開発/管理者、ICTを活用できるビジネスパーソンを目指して情報科学と経営学をバランスよく学びます。目標となる職種としては、SE、AI技術者、高校「情報」教員、IT起業家、プロマネ、経営コンサルタント、他です。

・メディア文化コース

現代社会におけるメディアの多様な役割を理解し、様々なメディアコンテンツに関する理論と制作技法を体系的に学びます。目標となる職種としては、メディアクリエイター、CGデザイナー、ゲームクリエイター、TVディレクター、プロデューサー、他です。

・心理・スポーツ情報コース

スポーツをする身体と心理を知るためのスキルと理論を学びます。スポーツの国際資格であるNSCAのパーソナルトレーナー、ストレンガス&コンディショニングの取得につながる科目を配置しています(公認心理師の資格取得につながる科目の配置も予定しています)。目標となる職種は、パーソナルトレーナー、スポーツメンタル指導士、カウンセラー、他です。

(3) 3年次…研究室配属による研究の目標設定

3年次の始めから研究室配属になります。配属された研究室において、主宰教員、研究室の仲間、先輩とコミュニケーションを取りながら、自分を相対化して、卒業研究のテーマを1年かけて絞っていく、そのテーマに必要な知識・技能について、アドバイスを受けながら習得していきます。

(4) 4年次…卒業研究+進路決定

3年次に1年間かけて自身で目標設定したテーマについて、主宰教員の指導の下で、各研究室内でコミュニケーションを取りながら1年かけて研究を遂行します。他研究室の卒研生との協同研究も可能です(他コースの研究室も可能です)。進路決定については、就職・大学院進学等の相談を研究室主宰教員、就職委員、研究室の先輩等を行い、そのアドバイスを参考に学生が自身の進路を決定します。



土田 賢省

総合情報学部教授

昭和59年3月、早稲田大学大学院理工学研究科博士前期課程数学専攻修了。
昭和59年4月、株式会社日本電気入社、ソフトウェア生産技術研究所研究員。
平成2年4月、神奈川大学工学部工業経営学科助手。
平成4年4月、東洋大学工学部情報工学科専任講師。
平成6年10月、早稲田大学より博士(理学)取得。
平成7年4月、東洋大学工学部情報工学科助教授。
平成9年9月～平成10年8月、米国オレゴン州立大学コンピュータサイエンス学科客員助教授。
平成14年4月、東洋大学工学部情報工学科助教授。
平成21年4月、東洋大学総合情報学部総合情報学科助教授。
平成25年4月～平成27年3月、東洋大学総合情報学部総合情報学科学科長。
平成29年4月、東洋大学総合情報学部学部長。
専門領域：ソフトウェア工学、グラフィック文法の応用、アルゴリズム、知的アプリケーション等。

生命科学部の取組み

— 学生の主体性を育成するために —

生命科学部長 金子 律子

平成9年（1997年）に、他大学に先駆けて本学の「生命科学部」は誕生しました。それまでは生物学関係の学問分野は、大学の「理学部」あるいは「農学部」に所属しておりました。本学では、「基礎研究」にベースを置く理学的発想と「応用研究」にベース置く農学的発想とを併せ持った「生命」全般を網羅できる学部として「生命科学部」を誕生させました。地球上には人間を含め、様々な「生命体（生物）」が存在します。開設以来、本学生命科学部では、生命を分子レベルから個体レベルまで様々な角度で捉え、基礎分野から応用分野まで広く研究しています。

近年、遺伝子操作や遺伝子検査、iPS細胞などを生かしたバイオテクノロジーは、理学・農学・工学・医学などの境界を越えて大きな発展を遂げています。例えば、高熱で生存する好熱菌（*Thermus aquaticus*）が産生するDNAポリメラーゼの利用によるPCR法（DNA複製技術）の開発により、1993年にキャリー・マリンス（Kary Mullis）がノーベル賞を受賞しましたが、この技術により様々な遺伝子解析が行われるようになりました。テレビのCMで宣伝されている「遺伝子検査」や、精度の高い「DNA鑑定」もこの発見により可能となり、ガン発症リスク検査、親

子鑑定や犯罪捜査などにも用いられています。2007年に京都大学のグループがiPS細胞の開発に成功し、山中先生がノーベル賞を受賞してからは、「再生医学」という言葉も良く耳にするようになり、実際に、心臓や角膜など様々な難病の治療にiPS細胞が使われ始めています。

このように発見や技術改革が日進月歩で起る生命科学分野では、絶えず新しい知識を取り込む高い主体性や勤勉性を持つ人材が求められています。現在、生命科学部では、「キャリアプラン形成の促進」や「専門職に向けた就職支援」など、基礎力や専門性の育成だけでなく、向上心・主体性育成や就職に繋がる以下の様な多彩なカリキュラムと課外のプログラムを実施しています。①基礎力の確立、基盤教育の推進、②専門知識の修得、③実験・実習を介して主体的に物事に取組み、自分で考える力の育成、④体験学習による好奇心や学習意欲の向上、⑤高度な機器の技術獲得によるキャリア教育、⑥グローバル化に対応できる英語力向上、⑦プレゼンテーション力の育成、⑧学生による国内・国際学会発表による行動力・発信力の育成、⑨資格取得支援や教職取得支援、などに取り組んでいます。これらの中でも、特に③、④、⑧は、主体性育成に直接繋がる取組みです。例え

ば③の体験学習では、農業体験、胚培養士体験（医科大学の生殖医療センターで人工受精を行う技術者「胚培養士」研修を受ける）や公害防止管理者（国家資格）育成のための研修を行っています。また⑧では、学生が国内・国際学会で発表することを学部として促しており、経済的サポートも受けられるため、毎年多数の学生が学会で発表をしています。

上記のような様々な取組みを通して、理系としての基礎力および専門性を育成しつつ、自ら積極的に物事に取り組む「主体的な姿勢の育成」にも学部として努めております。自信と実力をつけて社会に羽ばたいていけるよう学部教職員一同、学生育成・支援に取り組んでおりますので、今後ともご理解・ご協力頂ければ幸いです。



金子 律子

生命科学部教授

東京大学理学部生物学科動物学教室卒業。同大学院修士課程終了。医学博士。山形大学医学部・助手（現、助教）、カナダ・アルバータ大学医学部・博士研究員、聖マリアンナ医科大学・助手（現、助教）・講師・助教授（現、准教授）を経て、本学生命科学部教授。専門分野は、神経生物学。

学生の主体性を育む取り組み

食環境科学部長 林 清

1. 食環境科学部の概要

1997年に創設された板倉キャンパスは、2013年には「食環境科学部」が創設されました。食環境科学部は食環境科学科と健康栄養学科で構成され、食品の機能科学や栄養・健康科学を総合的に探究し、これを高度な栄養指導に発展させ、生命と健康、食の安全に係る分野で活躍できる人材を育成し、国民が生涯にわたり健康で明るく、活力ある生活が送れる社会づくり、国際社会の先駆けとなる健康長寿社会の実現（健康寿命の延伸）に貢献いたします。

2. 食環境科学科の近況

「私が考える食育」作文コンテストについてご紹介します。本コンテストは、群馬県ならびに（社）全国栄養士養成施設協会から後援を受けて、全国の高校生を対象に平成22年から毎年実施しており、平成30年度には第9回を迎えました。高校生には、自身のこれまでの経験や学習したことに基いて「食」に関するテーマについて、自らの考えを文章化することで、食育の理解や食について考える機会としています。30年度は、「忘れられない味」、「忘れられない料理」という課題で作文を募集し、約3,500点の応募作品が届きました。本コンテストの運営は、自主的に参加した食環境科学部の学生（1・2年生）が中心となり、広報グループ、選考グループ、高大連携意見交換企画（企画）グループに分かれて行っています。広報グループはポスターの制作や出身高校訪問によるコンテストの

広報を、選考グループは受賞候補作品を選出し、外部有識者が加わった選考会において、優秀作品の選考を行います。



企画グループは表彰式と表彰式後に開催される意見交換会の企画・運営を行います。各グループは、コンテストの実行委員を務めた上級生や教員と連携することで、コンテストの円滑な運営に努めています。食環境科学部では、本コンテストにおいて行事の企画や運営、作品の評価、外部有識者や高校生徒への連絡や対応、交流といった、教室での授業では体験する事の出来ない事を経験することにより、社会で活躍できる人材を育んでいます。

3. 健康栄養学科の近況

健康栄養学科（入学定員100名）では、健康と食をつなぐ専門的知識と技術を修得した専門職として、人々の健康の維持・増進のために貢献できる管理栄養士の育成に取り組んでいます。本学科では、3年生の後半から4年生にかけて、管理栄養士の職場である病院へ3週間、保健所・保健センターへ1週間行き、管理栄養士として具備すべき知識および技術の修得を目的とした「臨地実習」を行っ

ています。臨地実習先では、管理栄養士の先生によるご指導の下、管理栄養士の業務の多くを見学・体験してきます。慣れない環境の中で、計4週間もの実習をこなして帰学した学生は、一回りも二回りも成長しています。



臨地実習報告会

本学科学生の主体性を育む取り組みのひとつとして、その成果発表を行う臨地実習報告会があります。同級生および後輩である新3年生を対象として、実習先ごとのグループ発表という形で行います。グループごとに集まり、同級生ばかりでなく、まだ学習の進んでいない新3年生にも理解してもらえる発表をするには、どのようなスライドが必要か、どのような話し方をすればよいのか、試行錯誤を繰り返します。司会進行も学生が行い、まさに学生主体の報告会としています。このような学生の取り組みを通し、報告会は、毎年、素晴らしいものとなっています。

今後も、臨地実習とその報告会は継続しますが、学生の主体性を養うためによりよい取り組みとなるよう、一層、努力をしていきたいと考えています。



林 清

食環境科学部教授

名古屋大学農学部農芸化学科卒業。農林省 食品総合研究所研究員、農林水産省首席研究開発企画官、(独) 農業・食品産業技術総合研究機構 理事、食品総合研究所 所長をへて、2013年4月より現職。専門は食品科学、微生物利用、酵素利用。博士（農学）主な著書は、食物学Ⅰ、Ⅱ（建帛社）、食品技術総合事典（朝倉書店）、総合調理用語辞典（社団法人 全国調理師養成施設協会）、Biocatalysis and Agricultural Biotechnology（CRC Press）等多数。

平成三十年度「父母懇談会」を実施して

川越キャンパス父母懇談会を実施して

川越事務部 次長 藤田 正彦

平成30年6月24日(日)川越キャンパスにおいて、父母懇談会を実施いたしました。

理工学部と総合情報学部をあわせて269名のご父母の皆様をお迎えし、盛況のうちに無事終了することができました。

全体会は7号館の721教室にて行われ、大学生代表者、理工学部長、総合情報学部長、甫水会顧問の挨拶の後、就職講演という次第で実施しました。

今年の就職講演のテーマは、「就職活動の実情と『親』として知っておくべきこと」です。日本の就職活動の仕組みと親の役割について、株式会社ソーシャルデザインニング研究所の人事コンサルタント櫻井照士氏に講演していただきました。

櫻井照士氏は企業の採用戦略コンサルタント業務に携わる一方で、東洋大学において長年に亘り、キャリア支援セミナーや就職支援セミナーの講師として活躍されています。就職活動を通して学生が感じる疑問や不安に対して、常

に的確なアドバイスを行ってきた経験に基づいた説得力のある講演に、参加されたご父母の皆様も熱心に傾聴されていました。

講演会終了後は、各学科に分かれて、学科別ガイダンスと個別面談が行われました。

学科教員との面談を通して、授業の成績や資格取得、就職など、大学生活に関わる様々な情報を共有されたことと存じます。また、個別面談の待機時間を利用して、川越キャンパスの広大な敷地を自由に見学できる機会を設けました。バイオ・ナノセンターβ棟や図書館、体育館など特徴ある建物を含め、緑豊かな学修環境をご覧いただけたのではないのでしょうか。

現在、川越キャンパスでは、グローバル化の推進に向けた、様々な施策を行っています。

英語力に対する学生の意識を高めていくため、また多くの企業が就職活動において英語力を判断する材料としてTOEICテストのスコアを要件としていることから、英語プレイズメントテストとして、両学部においてTOEIC・

IPテストを実施しています。定期的にテストを受験することによって学習到達度を測ることができ、学生の英語学修に対するモチベーションの向上を図っています。また、学部の海外研修として、ペース大学(アメリカ)、チュラロンコン大学(タイ)、ハワイ大学(アメリカ)のプログラムを企画しています。

更に英語について学びたいという要望に対応するため、「グローバルコミュニケーションスペース」を設置しています。「グローバルコミュニケーションスペース」では、個別学修ブースやグループ学修スペースが設置するとともに、専門アドバイザーが常駐し、語学留学や海外インターンシップ、英会話講座、奨学金情報、留学生との交流など様々な支援を行っています。父母懇談会は、実際の大学キャンパスにおいて、ご子息の学修状況や学修環境を知ることができる、またとない機会です。ぜひ多くの皆様の参加をお待ちしております。

板倉キャンパス父母懇談会報告

板倉事務部 部長 深野 弘美

平成30年6月10日(土) 板倉キャンパスにて、生命科学部及び食環境科学部の保護者の方を対象に父母懇談会が開催され、生命科学科30名、応用生物化学科27名、食環境科学科36名、健康栄養学科40名、合計133名の保護者の皆さまが参加されました。

当日は、全体会、学科説明、個別相談、キャンパス見学会と盛りだくさんのメニューでしたが、皆さまのご協力によりスムーズに進めることができました。

全体会は、学校法人を代表し、大熊廣一常務理事からの挨拶、金子律子生命科学部長と林清食環境科学部長の紹介があり、荻野雅彦浦水会長からご挨拶をいただきました。

続いて、就職講演として、株式会社ソーシャルデザインニング研究所 人事コンサルタント 櫻井照二氏から「就職活動の実情と『親』として知っておくべきこと」の講演がありました。

櫻井照二氏は、企業の人事採用のコンサルタントと大学生の就職支援の双方の経験を持つエキスパートとして、長年に亘り、東洋大学全キャンパスの就職支援セミナーの講師を担当していただいています。本学学生特有の課題を理解し、

実際の採用に係わっている経験による具体的な確かなアドバイスが好評です。低学年のインターンシップ参加のための準備セミナーに始まり、自己分析やエントリーシートの作成、筆記試験のポイント、面接対策など多岐にわたる就職活動全般の講演を頂いています。

今回の講演では、親の時代とは異なる就職活動のスケジュール、売り手市場の実情、さらに、就職に直面している学生に「親」がすべきことについて、普段接している学生の実際状況に触れながら具体的なアドバイスをいただきました。慣れない就職活動で混乱し疲弊している学生を保護者がどうサポートすれば良いか、つかず離れず精神的な支えとなるための方策などをお話いただきました。

終了後は、学科に分かれて、学科長からの全体説明を行い、個別面談の後、キャンパス見学となりました。男子学生(お子様)に案内されているお母様など、ほほえましい光景も見られました。ご参加の方のアンケートでは、就職講演の評判が高く「就職活動が良く分かった」「安心した」との感想が寄せられました。

食堂を利用された方からは「健康栄養学科があるキャンパスの食堂としてはいかがなものか」とのご意見をいただきました。これについては、今年度から、給食委員会を立ち上げ、教職員と食堂(カパティーナ、ベージックコーヒール)関係者が、より良い食事の提供を目指し、月1回の会議を開催しています。健康栄養学科の学生が企画・提案した健康ランチや、季節野菜のカレーライス、選べる雑穀ご飯など、健康的で美味しいメニューを目指しています。まだ、スタートしたばかりの取組みではありますが、いただいたご意見を大切に受け止め、学生に喜ばれる食堂づくりを目指します。

大学生生活を健康に送る上で「食」は重要な要素となります。浦水会からご援助をいただき全キャンパスで行っている「100円朝食」は恒例の行事となり、試験前の学生の健康を支えています。それぞれのキャンパスの食堂が、栄養があつて美味しい朝食の提供に工夫を凝らしています。生活のリズムを作る上でも効果的な、朝食を食べる習慣が根付くことが期待されます。また、今年度の全国の地区別懇談会で配付させていただいた冊子「健康はキャンパスランチから」は、食環境科学部が立ち上げた学生健康支援プロジェクトが作成いたしました。これについても、浦水会からご支援を頂いています。冊子の中では、大学時代に基本的な食生活の習慣と知識を身につけ、社会人になっても健康的な生活が送れるように、まずは、身近な学生食堂を利用した食事の摂り方を提案しています。板倉キャンパスでは、学部の特徴を生かし、学習と生活の両面からの学生支援を目指します。今後とも、保護者の皆様のご支援・ご助言をよろしく願います。

朝霞キャンパス父母懇談会を開催して

朝霞事務部朝霞事務課 課長補佐 綱島 啓介

朝霞キャンパスで6月23日(土)に開催した平成30年度父母懇談会は、多くの参加者をお迎えし、盛況のうちに無事終了することができました。当日は12:30~16:20までの短い時間ではありましたが、就職講演会をはじめとした全体会、学科・専攻別説明会、個別面談、キャンパス見学会の各プログラムにご参加いただきましたご父母のみなさま、ならびにご協力をいただきました関係者の方々に對し、改めて感謝申し上げます。

全体会は、朝霞キャンパス講義棟3階の講314教室にて行なわれ、大学代表者として、ライフデザイン学部教授でもある中原美恵副学長の挨拶からはじまりました。その後、ライフデザイン学部長の齊藤恭平教授より挨拶を差し上げた後、甫水会代表として竹内夕美子副会長より、ご挨拶を頂戴いたしました。

ご父母のみなさまの関心がとても高い就職講演会では、(株)ソーシャルデザインニング研究所の渡邊剛氏をお招きし、「就職活動の実情と『親』として知っておくべきこと」と題してご講演をいただきました。渡邊氏は、採用コンサルタント

トとして企業における採用戦略や人事研修、カウンセリング業務等に日々携わられていらっしゃるほか、本学におきましても、各種講演やガイダンス、模擬面接等の指導・講師として、学生指導におけるご支援をいただいております。本学の学生気質を重々理解し、かつ、ご子息の支援にも直接携わっていただいている講師からのお話については、ご父母の皆さまにおかれましても、今後の大きな指針としていただけたのではないかと推察いたします。

なお、就職関係の補足となりますが、朝霞キャンパスには、キャリアアカウンセラーを配置したキャリア支援室、教職アドバイザーが学生を指導する教職支援室を設置し、様々な就職支援行事や資格取得のための講座、教員採用試験対策講座、公務員対策講座など、学生をサポートする体制を整えております。就職活動が本格化する3年次以降だけでなく、1~2年次からもぜひとも、上記の支援室などを積極的に利用するようお伝えいただければ幸いです。

就職講演終了後は、各学科・専攻に分かれて、教員による学科・専攻の説明および個別面談を

実施いたしました。ご子息の大学生活や授業での様子、成績、資格取得、就職に関する質問など、教員との面談を通じて様々な情報を共有いただくことができたのではないかと考えております。

ライフデザイン学部は、生き方、健康、暮らし、そして生活環境を創造する「ライフデザイン」とは何かを考え、より豊かな21世紀の生活と環境を実現するために、幅広い知識と実践を積み重ね、高度な専門性と総合的な視野をもった人材を育成しておりますので、各種実習施設等を見学できるキャンパスツアーの注目度も高くなっております。

キャンパス見学では、介護実習室、入浴実習室、保育実習室、音楽実習室、実験工房棟や図書館をはじめ、体育館、テニスコート、人工芝グラウンドなどの体育施設など、学修環境や学生生活の場をご父母のみなさまにご覧いただいております。

朝霞キャンパスでは、今後とも教員・職員が一体となり、今まで以上に学生一人ひとりに細かなサポートができるキャンパスを目指していく所存です。

平成30年度の父母懇談会が無事、開催できましたことを心より感謝申し上げますとともに、今後ご父母のみなさまには積極的に父母懇談会へご参加をいただき、大学への意見をお寄せいただけますよう、何卒よろしく願っております。

赤羽台キャンパス父母懇談会を開催して

赤羽台事務課長 渥美 元康

2018年6月17日(日)、赤羽台キャンパスで第2回目の父母懇談会を開催させていただきました。

赤羽台キャンパスは、2017年度に開設した情報連携学部 (Information Networking for Innovation and Design : 通称INiAD) の1、2年生約800名が学習しており、AI+IoT時代の教育の場として、情報技術と他分野との連携によって社会に新しいイノベーションを起こすことのできる人材を育成しています。キャンパスは、鍵や照明、空調、ロッカー、エレベーター、センサーやカメラなどの様々な設備がインターネットに接続されている最先端のIoTビルディングとなっており、建物自体が教員や学生の研究プラットフォームになっています。

また、ペーパーレスを推進しており、紙の掲示板や冊子による図書館、黒板はなく、デジタルサイネージやプロジェクターを使った案内、電子ブックや電子ジャーナルを利用した学習、インターネットにより各自での予習・復習が可能なMOOCs (ムークス) を活用した授業など、特徴的な取組を行っています。

懇談会では、IoTの世界的な権威であり、このINiADと赤羽台キャンパスの総合プロデューサーを行った坂村健学部長より、学部のコ

ンセプトと学生の学習状況、指導体制などを説明しました。特に坂村学部長からは、大学は勉強をするところであり、INiADでの学習は決して楽ではないが、自ら考え、一生懸命努力をする学生には最大限のサポートをするので、INiADで社会に通用する力を身に付けてほしいということが強調されました。

その後、キャンパス見学会を実施し、上記の施設設備のほか、井上円了展「哲学ワンダーランドー井上円了の不思議な世界ー」をご案内させていただきます。

展示会は、本学の設立者井上円了博士が設計した中野区の哲学堂公園をテーマにしていますが、INiADの趣旨に則り、最新のコンピュータ技術を使ったものとなっています。

まず、展示は一切紙を使わずプロジェクターを使用し、写真だけではなく動画やプロジェクトションマッピングなどを駆使しているほか、AIを活用した120カ国語の自動翻訳表示や、明治時代の写真の高解像度化・自動カラー化なども行っています。

また、センサーを利用して哲学堂公園の建物内部を360度回転して見ることを可能としたり、哲学堂公園の模型に、井上円了が哲学の「教育装置」として想定した公園の順路と説明を付すなど、インタラクティブな展示会となっています。

このように赤羽台キャンパスの中では、INiADの教育研究を活かした取組が随時進められており、たとえば第2回目の実施となった大学祭「INiAD FES」では、学生が主体となり、デジタル技術を駆使した未来の大学祭をイメージ、企画しました。

学生自らが授業で学んだプログラミングを駆使し、来場者の入退場のアプリや、IoTビルディングを活用した脱出ゲームを制作したり、清掃ロボットを利用したプログラミング教室やVR体験などの体験型企画を実施したほか、普段のサークル活動の成果を数多く発表することができました。

また、大学祭では初となるVTuber4人によるトークセッションを実施し、多くの来場者の方から好評をいただきました。こうした成果もあつて、全国から120以上の大学がエントリーした「学園祭グランプリ2018」において総合6位を受賞しています。

また、今年1月にはIoTテストハブが完成しました。ここでは、LEDパネルの床面に様々な走行コースを表示し、IoTデバイスを搭載したモデルカーの自動走行実験を行ったり、モーションキャプチャーやカメラ、センサー類を柔軟に設置することで様々な実験をすることが可能となりました。

このように、赤羽台キャンパスの教育研究環境は日々進歩しており、いわば、教員や学生とともに成長していくキャンパスとなっています。

我々職員も、これらを精一杯サポートしていく所存ですので、ご父母の皆様におかれましては、引き続きご理解とご支援を賜るとともに、ぜひ次回の父母懇談会にもご出席いただき、成長し続けるINiADをご覧いただければと存じます。

「平成二十年度父母懇談会および支部総会に参加して」

東洋大学甫水会常任理事 松村 壮史

今年度甫水会常任理事を拝命し、所属支部以外の各支部総会および父母懇談会に初めて出席させていただきました。最初にお伺いする支部は7/7の岡山県支部であり、兵庫県姫路市開催を予定されておりました。事前に支部長よりきちんとした総会資料をお送りいただき準備万端と思いきや、皆様のご記憶にも深く刻まれた平成30年7月豪雨に見舞われ、交通手段が断たれ総会は延期となつてしまいました。一方同日には兵庫県支部と合同の父母懇談会が同時開催されました。父母懇談会では学部長による大学の教育体制の説明、就職支援課職員による就職講演が行なわれました。グローバル人材の育成に対して多彩なプログラムが用意されていることに感銘を受け、またここまで細やかに就職を支援しているのだと、私の学生の頃と比べうらやましくもありました。また父母個人面談では学生の成績書を元に学校生活の相談などを行なっており、首都圏に一人暮らしをされていて普段電話で話してもそっけないご息のリアルな学業状況を把握できる良い機会と推察され、お時間をかけてじっくりとご相談されておりました。翌日は大阪に会場を移し、私は和歌山県支部の総会に出席いたしました。今回ご出席者がお住

まいの那智勝浦から和歌山市までの距離が約170km（ちなみに和歌山市から会場の大阪市までが約80km）と、県内の移動にも大変ご苦労なさっていることを知り、支部活動の難しさに直面いたしました。そのような中ご出席された皆様の協力のもと役員を選出し来期への活動を繋いでいただきました。こうして私の初の支部総会は、大自然の猛威と、今まで自覚していなかった各支部運営の物理的な壁に打ちのめされました。

7/14は鹿児島支部の総会にお伺いしました。熊本市にて熊本県支部と合同開催されました。実直な支部長の下、現役員、新役員のご協力により円滑に終了いたしました。一方他県開催で会場まで約170kmの遠距離ということもあり、出席者は振るいませんでした。合同開催のメリットは大きいものの、支部にとってのそのあり方を考えさせられました。

7/29は所属支部でもある神奈川県支部総会へ出席いたしました。会員数2000名を超え年間5つの行事を開催し、その準備等も含め月に1回強の役員会を実施している、活発な支部のひとつです。メインの行事は神奈川県を横断して行なわれる箱根駅伝の応援であり、近隣の支部はもとよ

り遠方の支部の方も応援に駆けつけるビックイベントですが、役員の減少に伴い規模の縮小もやむなしとのことです。支部活動の活発化ひいては会費の会員への還元と役員の負荷とのバランスをどう取るかという課題が浮き彫りにされておりまして。

最後に伺ったのが8/4の高知県支部です。こちらは四国合同開催で4県の中心にある愛媛県新居浜市で行なわれました。7月豪雨で愛媛県を中心に甚大な被害が出た四国はまだ復興中で予讃線が一部不通の中、各県とも無事開催されました。出席した高知県支部では新入生への甫水会説明会などを行なっているそうでも新鮮に感じました。一方こちらでも総会会場がどの県からも遠いことから出席人数が振るわず、合同開催の課題はこの支部でも同じであることを痛感いたしました。

今回の支部総会出席を通じて考えさせられたのは、上述の他に支部行事開催の難しさです。地理的に集まるのが難しい他、経験が無いためどのような行事をどのような手順で企画したらいいのか分からないという声も聞きました。本部役員としては他支部事例紹介など支部間の情報や行事の横通しを支援する必要性を感じるとともに、各支部役員の方々が、いろいろな課題を抱えながらも支部活動を継続されている姿に感謝いたしました。最後に、大学職員、支部役員の方々のご尽力に感謝いたしますとともに、会員の皆様におかれましては甫水会活動への積極的なご参加のほど、よろしくお願い申し上げます。

「グローバル人材育成の目的と その支援について」

国際部 部長 高橋 清隆

本学は、文部科学省に日本の国際化を牽引する大学として選定された37大学のうちの1校です。目覚ましく発展する国際社会で活躍できるように、学生のグローバル力強化のための様々な支援を行っています。

IIIE (Institute of International Education) の調査では、世界における高等教育に係わる学生の留学者数は2001年には210万人でしたが、2017年には460万人へと2・2倍に増加しました。また、この1年間だけでも50万人増加しています。多くの若者が異国で学び、異文化を体験し、国際適応力を身に付けています。

日本の大きな問題として人口の減少があります。出生数は1973年(昭和48年)の209万人から2017年(平成29年)には94万人へと半減しました。絶え間ない技術革新と新しいサービスを提供しながら企業は成長を続けますが、人口の減少は日本の市場(購買層)が縮小していくことを意味しています。しかしながら、企業は更なる成長を追求するため、海外への市場進出が今後急増していくでしょう。その時に必要となるのが個人人のグローバル力です。英語を中心とした語学力、他国文化の理解と受容、関係者との交渉力や交流力など、個々人の能力が強く求められます。高い

幅広く繋がっていくことができます。

そのため、語学力、特に英語力の強化に取り組んでいます。留学に必要な英語力を習得するための正課授業(LEAP)、少人数制(1人〜4人)の英会話教室(課外講座)、英語資格TOEIC、TOEFL、IELTSの試験対策講座、英文の個人添削など、1年を通じて多様なプログラムを無料又は安価で提供しています。

また、異文化を理解するため、短期(9日)から長期(1年)までの留学プログラムを多数用意しています。海外留学は学生時代にしかできない貴重な経験であり、将来を見据えたとき、学生時代にこそ身に付けるべき能力として位置付けています。本年11月1日現在で、海外の大学など164機関と協定を締結し、うち103機関と学生交換協定を締結していますので、世界各国の大学に留学することが可能です。ただ、留学には費用負担が伴いますので、他大学と比べて手厚い奨学金を用意しています。留学の種別と期間、語学力等により7万円〜300万円まで返還不要の奨学金を支給しています。

この他、本学で学ぶ外国人留学生も増加し、2013年(平成25年)の481人から2017年(平成29年)には1,509名へと、この4年間で3倍に増加しました。学内に居ながら多くの外国人学生と交流できるよう、今後も更に増やしていく予定です。

このように、将来を見据え、国際化のうねりを乗り越え、国際社会で活躍できるグローバル人材の育成は、本学の教育の柱の一つであり、保護者各位におかれましてもこの状況をご理解いただき、学生のグローバル化を後押ししていただきたくお願い申し上げます。

語学力や海外留学経験がなくとも大学は卒業できますし、また現在は就職も順調です。しかしながら、東京オリンピック以降は景気が悪化すると予測され、先に述べた人口減少による市場の縮小はさらに追い打ちをかけます。韓国も市場の縮小により海外にその場を求めました。そのため、韓国の大学生は、サムスン電子(Samsung)などの自国の優良企業に就職するためには、ダブルメジャー(学位を2つとること。例えば経営学士と情報学士)と英語に関してはTOEIC900点以上のスコアの保有が必須となっています。また、フィリピンはもとよりベトナム、ミャンマー及びブータンなど、アジア諸国では英語教育が浸透し、国民の英語力が大変高くなってきています。

いま、本学に在学している学生が卒業し、10年後、20年後経った時には、多くの卒業生が海外勤務を始め、国際的な業務に携わっていることでしよう。その時に、能力をいかに発揮できるやう、学生時代にグローバル力を身に付ける必要があります。特に語学力は一長一短には身に付きません。スポーツと同じで毎日のトレーニングが必要です。語学力が向上すると、外国語で教える授業科目の履修、海外留学への参加、グローバル力を測定するためのTGLプログラムへの参加と

「学生生活における環境及び諸問題について」

学生部学生支援課 課長補佐 椎名 康行

東洋大学学生部では、学生生活を支援するための業務を行っています。業務内容としては、①奨学金及びグローバル化に伴う留学生などを担当する厚生業務。②運動系の部活動を補助・支援する運動部業務。③2020東京オリンピック・パラリンピックに関係する業務。そして、④文化系サークルや学生の課外活動（大学祭・ボランテニア活動を含む）を補助・支援する課外業務となります。保護者の皆様におかれましては、お子様の大学生活は非常に気になるところではないかと思われまます。今年度も6月から8月までの3ヶ月間、父母懇談会が実施されました。懇談会では、奨学金・部やサークル活動・学生生活全般に関することなどを率直に聞いていただき、日頃疑問に思われていることが少しでも解決されていれば幸いです。今回は、現在の学生を取り巻く環境及び諸問題について情報共有をしたいと考えています。最近、特に問題となっているトラブルは、マルチ商法による詐欺被害や飲酒問題などです。このことについて、事例を交えて状況をお伝えします。

【マルチ商法による詐欺被害について】

マルチ商法の詐欺被害にあった学生からの話を聞くと大抵の場合、知人や友人から「儲け話」が

あると呼び出されています。詳しい話をすると言われ喫茶店へ向うと言葉巧みに投資での儲け話をされます。また、投資で成功した人たちが映っている映像を見せられる場合もあります。数日後、再度呼び出されると今度は数十万円の学生ローンを組まされ、現金を渡し、契約書を書かされてしまいます。その際、領収書も契約書も手渡されず、学生の手元に残るのは、数十万円で購入した「投資で儲かる必勝法のDVDやUSBなど」です。この時点で、投資詐欺による被害にあったことに気づき、保護者、先生、友人に相談の後、学生支援課及び学生相談担当窓口へ相談に来た場合には、それ程被害が拡がらずに終息できています。しかし、洗脳されてしまい自分は投資詐欺にあっている訳ではないと思いついてしまっている場合には、友人・知人も紹介してしまい加害者となってしまいう場合もあります。やはり、学生だけで判断するのではなく常に周りの方々に相談する意識を持つことで、防げることもあります。簡単に儲けられる話には十分に注意をしていただきたいと思います。

【飲酒問題について】

年間を通して学生の飲酒トラブルがあります。特に、4月の新入生歓迎会・長期休暇期間（夏季

休暇・冬季休暇・春季休暇）です。未成年者の飲酒や飲酒の強要やイッキ飲みは「絶対しない・させない」ことについてはガイダンスにて周知し、掲示物及び学生ハンドブックなどにて注意喚起を行っております。

しかし、学生の一般的な飲酒に対する意識の中には、「友人たちとのコミュニケーションツールとなっていること」「飲めないこと・飲まないことはノリが悪いと思われること」など飲まないことに対するマイナスなイメージがあるようです。しかし、未成年者の飲酒については、「未成年者飲酒禁止法」により禁止されています。飲酒により気が大きくなり、羽目を外しすぎて店内でトラブルを起こしたり、外部からの通報が大学に寄せられることもあります。また、急性アルコール中毒になり救急車で病院に運ばれるケースもあります。最悪の場合には、急性アルコール中毒等による大学生の事故がニュースになっています。一度、飲酒について人生の先輩である保護者より失敗談なども含めてお子様と話し合われてはどうでしょうか。

今回は、マルチ商法による詐欺被害及び飲酒問題を中心に記載いたしました。学生生活における事例のほんの一部です。学生の抱えている問題にいち早く対応し、解決するには、学生と保護者の日頃におけるコミュニケーションが不可欠です。是非、お子様と色々なことを話していただき、学生が大学生活を有意義に過ごせるように保護者の皆様よりご協力、ご支援いただけますようお願い申し上げます。

就職関係

就職・キャリア支援部 部長 石井 健一

はじめに

平素より、就職・キャリア支援部の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。本年度も各キャンパスで「父母懇談会」、全国各地での「地区別父母懇談会」が開催され、多くの皆さまにご参加いただきました。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

日本経団連の指針による企業側の採用活動は、「3月広報活動解禁・6月選考活動解禁」と、今年度も昨年度と同じスケジュールで動きましたが、実際は昨年度より選考スケジュールを早めた企業が多々見られました。

また3年生向けを中心にインターンシップを実施する企業が増え、それに伴い学生も「就職活動の前段としてインターンシップに参加すること」が、普通になりました。

こうした変化とそれに対する就職・キャリア支援部の取組みを、毎年の父母懇談会での講演等を通じて、今後も皆さまにお伝えできればと考えております。

以下、現4年生の状況と、これから就職活動が本格化する現3年生の状況、最後に低学年からの準備などをお伝えいたします。

4年生の就職状況について

今年度の状況ですが、経団連の指針どおり6月に選考をスタートした企業は全体の一部で、多くの企業はそれより早い時期に選考を開始し、6月以前に内々定を出した企業もありました。

企業の採用意欲は昨年度同様に高めで、早い時期に複数企業から内々定を得て選択に迷う学生も見受けられました。

しかし進路決定に向けて活動をしている学生も多くおります。3月まで例年企業からの求人は届きまますので、最後まで諦めず、粘り強く活動を続けることが大切です。

特にこれからは、

① 本学求人サイト（求人ナビ）の求人情報の活用

② 本学へ来訪された企業の求人情報の活用

③ 内定直結型「マッチング会社説明会」等の学内求人イベントの活用

をお勧めします。

お子様には、ぜひ各キャンパスの就職支援室の活用と、職員・相談員による個別相談を利用するようにお伝えください。

なおイベントのお知らせは、学生向けポータルサイト「TOYONET.Gの就職情報」の他、掲示・学内放送・DMなどで行っています。

3年生の就職状況について

現在就職活動本番に向けて準備をするための「就職活動支援セミナー」が各キャンパスで10月から年明け1月にかけて行われます。次年度も経団連の指針による企業側の採用活動スケジュールは変更無しですが、選考等で各企業の動き出しは更に早くなる事も予測されます。従って、大学で実施する支援セミナーに早くから参加し、社会の状況を把握するとともに、就職活動全体の流れと対策を把握することが大切です。

支援セミナーでは、ワークも交えながら、採用試験に必要なエッセンスを修得します。具体的には、自分の将来と就職活動を結びつける自

己分析や、企業の見つけ方、エントリーシート の書き方、模擬面接、人事担当者の講演など、多岐に渡る内容です。また、業界・職種研究、SPI・一般常識テスト・Webテスト対策、ビジネスマナーなどのイベントも平行して実施 します。

現時点で具体的な希望進路を決めていない学生も、公務員・教員を希望する学生も、これらのセミナーに参加することを奨励しています。自立した大人として社会で働くための準備に、きつと役立つと考えています。

1・2年生からの就職準備について

本学では、入学と同時に全学生を対象に基礎力テスト「PROG」を実施しています。これは大卒者として社会で求められる汎用的な能力・態度・志向を客観的に把握するためのテストです。このテストは3年生の4月に再度行いますので、2年間の成長を自ら確認するとともに、自身の強みを活かした就職活動の一助ともなります。

また就職活動をスムーズに進めるためには、低学年から意欲的・積極的に学生生活を送ることが重要です。ゼミや国内外のインターンシップ・ボランティアなど多様な経験にチャレンジするよう促していただければ幸いです。

最後になりますが、現在就活ルールの見直し議論が行われています。今後この議論がどうまとまるか不明ですが（この原稿を書いている9月現在）、将来ルールの変更があった場合は、本学の就活支援スケジュールも必要に合わせて見直しを行う予定です。引き続き保護者の皆さまのご支援を、よろしくお願い申し上げます。

納付金(学費等)について

経理部財務課

I 納付金の納入方法と時期

毎年、納付金の納入にご協力いただきましてありがとうございます。

納付金について、電話等での問い合わせ内容を中心に説明いたします。

納付金振込用紙は、学年末に次の学年に必要な金額を記載し、お送りします。

① 納付金振込用紙の郵送先

第一部：保証人住所宛てに郵送

第二部：本人または保証人住所宛てに郵送

(郵送先は入学時に選択した宛て先)

② 納付金の振込方法

大学より郵送されたその年度の指定振込用紙をご確認ください。

また、大学での現金による受付はしておりません。

③ 全納と分納

振込用紙には「全納」と「分納」の用紙があり、振込時に選択してください。

全納：年間必要額を一括して納入

分納：年間必要額を春学期と秋学期の二回に分けて納入

分納を選択された方の秋学期用振込用紙は、秋学期納入時期に大学より郵送します。

④ 納入期間

・春学期 四月一日～四月二五日

・秋学期 十月一日～十月十五日

※納入期間は各年度の曜日により変動します。

振込用紙記載の期間内にお振り込みください。

II 納付金の内訳

納付金は、「学費」と「その他の費用」に区別されます。

① 「学費」には、入学金・授業料・一般施設

備資金・実験実習料・教育充実料が含まれます。

(実験実習料・教育充実料は該当する学部・学科のみ。)

② 「その他の費用」は次のものになります。

・ 雨水会費
・ 学生課外活動育成会費

III 学籍異動に係る納付金について

休学・原級・退学等、学籍異動時には必要な納付金が変わります。

休学：休学期間中の一般施設設備資金の半額、およびその他の費用が必要となります。

原級：四年生で原級する場合、当該年度の正規四年生の納付金と同額になります。

原級された後は、納付金のお支払いは学期ごとになります。

退学：各学期の納入期間内に退学の手続きが完了した場合、前学期末付での退学

となり、納付金を納入する必要はありません。

なお「異動許可願」が受理された日より学

籍異動の効力が発生する日付が異なります。

申請手続きについて不明な点等は、各学部教務課等にお問い合わせください。

IV 納付金についての問い合わせ先

振込用紙の未着や紛失、支払額の詳細など、納付金に関するお問い合わせやご相談はテレフォンガイドを参照願います。また、東洋大学ホームページでも詳細をご覧いただけます。

浦水会活動

平成29年度浦水会活動報告

(平成30年度評議員会資料抜粋)

平成29年度事業報告

東洋大学においては、平成24年に、「諸学の基礎は哲学にあり」の理念を基礎とし、創立130周年を迎える平成29年度には、「TOYO GLOBAL DIAMONDS」構想における平成28年度までの実績が評価されることとなり、さらに、新学部・学科の設置もあいまってキャンパスの国際化はこれまで以上にいっそう進展が図られています。

「東洋大学は世界標準の教育と研究、社会貢献活動を推進するのみならず、国際的に優れた水準の大学を目指す」といった「未来宣言」の実現を目指し、ワールドクラスの大学への道の第一歩を踏み出す年と位置づけられています。

東洋大学浦水会は、昭和34年1月父兄会として設立されてから今日に至るまで、「東洋大学学生と父母及び保証人との連絡を密にし、大学の興隆発展に協力するとともに、大学と協力して学生の心身の健全な発達を図ること」を目的としており、平成29年度で創設58年目を迎えました。また、平成27年度より、浦水会として大学の掲げる目標及び事業を支援するため、大学との「協働」のもと、事業分野を拡大し、各種事業運営を見直しました。会員にとって今まで以上に大学を身近に感じていただくとともに、会員の声に真摯に耳を傾けることにも注力いたしました。

このような背景のもと、平成29年度も引き続き、大学との「協働」「連携」の基本方針のさらなる充実を目指して、浦水会の事業を展開してまいりました。

以下、去る平成29年5月の評議員会で承認された事業計画に基づき執行した1年間の事業実施概要を報告いたします。

本部事業関係

1. 諸会議及び行事

【諸会議】

(1) 評議員会
平成29年5月27日14時より東洋大学白山キャンパス8号館125記念ホールにおいて、会則第6章評議員第21条に基づき開催され、評議員72名が出席して、議長、副議長選出、また、議事録署名人を選任後、議案について審議を行った。

(2) 理事会

常任理事と地区長理事で構成され、会則第4章役員第8条に基づき、開催された。

- ① 平成28年度 平成29年4月15日
- ② 平成29年度 平成29年10月28日

(3) 常任理事会

会則第4章役員第9条に基づき、月1回の定例会議(但し、7・8月は除く)を開催し、業務を執行した。

- ① 平成28年度 平成29年4月15日
- ② 平成29年度 平成29年5月13日
- ③ 平成29年度 平成29年6月3日
- ④ 平成29年度 平成29年9月2日
- ⑤ 平成29年度 平成29年9月9日
- ⑥ 平成29年度 平成29年10月14日
- ⑦ 平成29年度 平成29年11月11日
- ⑧ 平成29年度 平成29年12月9日
- ⑨ 平成30年度 平成30年1月13日
- ⑩ 平成30年度 平成30年2月3日
- ⑪ 平成30年度 平成30年3月10日

(4) 常任理事会内委員会

必要に応じて業務を執行した。

(5) 役員選考委員会

会則第4章役員第6条に基づき、全国56支部より選出し、次期役員候補者を選考するため、平成30年1月20日に開催した。

(6) 地区別支部長会議

会則第10章地区および支部第39条に基づき、本部・支部活動の円滑な連携と地区の活性化を目的とし、地区長主催で全国10地区において実施され、各実施日程は次の通り。

関東15支部・甲信越3支部・北陸2支部(平成30年2月3日)、東北6支部・東海4支部・四国4支部・九州8支部(2月17日)、北海道5支部・近畿4支部・中国5支部(2月24日)

(7) 全国56支部長研修会

平成29年9月9日に白山キャンパス5号館5B12教室で開催した。
本部主催で全国56支部長(代理含)の参加による、「浦水会諸規程」および「支部関係業務処理に関する取扱い」を主とした研修を行った。

【行事】

(1) 父母懇談会

校舎	学部	申込会員数	参加者数	実施日
白山	文学部	142	177	6/11(日)
	経済学部	135	163	
	経営学部	146	187	
	法学部	82	94	
	社会学部	166	192	
	国際地域学部	44	49	
	国際学部	29	36	
国際観光学部	39	47		
川越	理工学部	233	315	6/11(日)
	総合情報学部	56	78	
朝霞	ライフデザイン学部	108	114	6/10(土)
板倉	生命科学部	72	109	6/10(土)
	食環境科学部	76	97	
赤羽台	情報連携学部	102	161	6/18(日)
出席者合計		1,430	1,819	

① 学生が在籍する校舎(白山・川越・板倉・朝霞・赤羽台)ごとに「学部別父母懇談会」が6月に実施され、大学教職員による「履修・成績及び学生生活・就職」等について説明及び個別面談がなされた。

② 関東地区を除く全国26会場にて「地区別父母懇談会」が開催され、参加者は792名であった。大学教職員及び本部役員が出張し、「履修・成績及び学生生活・就職」等について説明・面談を実施した。

(2) 会員の集い・就職フォーラム

会員相互の親睦を深め、就職関係の充実を図ることを目的とし、白山キャンパス井上円了ホールにおいて10月29日に開催した。

午前中2回に分けて白山キャンパスタワーを実施し、午後からは、東洋大学北脇秀敏副学長および、浦水会阿部雅道会長からの挨拶の後、就職フォーラムが実施され、(株)NTTデータ経営研究所取締役唐木重典氏より、「採用者の立場親の立場で考察する就活サポートの在り方」採用担当としての視点から」と題した実践的な講演がなされた。次いで、前年度就職の卒業生、高柳佑香さん(国際地域学部)、久保遥さん(法学部)、笠井文香子さん(経営学部)、佐々木舞子さん(ライフデザイン学部)、池田遥香さん(理工学部)、荏原健太さん(理工学研究科)、高橋辰乃介さん(生命科学部)の7名と、浦水会会長、副会長3名によるパネルディスカッションが行われ、就職活動内容やインターンシップでの就職体験などについてより具体的な意見が交わされた。

平成29年度の参加者は、694名であった。なお、過去8年間実施した結果は、平成21年度は546名、22年度は330名、23年度は228名、24年度は472名、25年度は383名、平成26年度は516名、平成27年度は635名、平成28年度は615名となっている。

2. 学生支援諸制度

(1) 奨学生制度

「奨学生規程」に基づき、常任理事会において選考の結果、3名採用した。

(2) 学生クラブ・サークル、学術研究等援助・表彰制度

学生クラブ・サークル活動(運動部・文化部・学術研究サークル・ゼミ等)に対し、学生部と連携して申請が出された14サークルに(20,000円)、スポーツ東洋新聞等広告掲載料として(150,000円)援助した。また、「援助・表彰基準」により、1部体育会・2部体育会の団体の部10団体、個人の部46名への表彰と褒賞金(2110,000円)を援助した。

(3) 国際化の支援

今年度、大学担当部署と協議して試みたが、実施に至らなかった。次年度に向けて、体制の整備を図りたい。

(4) 就職活動支援

① 東洋大学第2種奨学金受給者(3年生)等を対象に就活グッズ無料引換券を113名に配布した。(1080,000円)

② 参加者へ大学名入り履歴書を配布した。(861,732円)

③ 「カードミラー」を1800枚作成し、配布した。(11,781,676円)

(5) 学生の食育支援

今年度も申請に基づき、平成29年度7月春学期4キャンパス学生食堂にて、学生に期間限定で朝食提供補助1051食数援助、および1月秋学期は、1075食数援助した。(610,850円)また、板倉キャンパスの図書館での、「図書館de朝カフェ」の実施に際して、ヨーグルト、牛乳、グラノーラ等の軽食を提供した。(80,872円)

(6) 東洋大学社会貢献センター学内講座浦水会援助制度

東洋大学社会貢献センター学内講座の実施に伴い、申請に基づき対象資格に合格した学生46名に対して援助した。(303,700円)なお、援助は他学部との褒賞金とは重複しないことを前提とした。

(7) 弔慰金制度

「弔慰金規程」に基づき、申請により11名に支給した。

(8) 学生総合補償制度

1年生の浦水会会員を対象とした任意加入

の学生総合補償制度で、305名が加入した。

3. 浦水会費の徴収・支部運営費の交付

(1) 浦水会費の徴収

浦水会費は、1部学生については、入学時及び毎年授業料払込時に5千円を大学に代理徴収をお願いしている。2部学生については、任意加入とし、本部に納入された。

(2) 支部運営費の交付

① 支部運営費は、浦水会費を納入した会員の所属する6月時点での支部会員数1人当たり1千円を乗じて算定した。さらに会員が1,000名未満支部については、10万円を加算し、本部から年1回6月に26,627名分を支部運営費として支出した。(31214,000円)

1) 会員数×単価1千円

2) 支部会員数定額加算

46支部×10万円ずつ

② 支部開催事業(就職説明会、文化・体育活動等、その他主たる目的が会員親睦である活動以外の活動を目的とした支部行事)に対して、20支部主催行事に援助した。(1,427,140円)

③ 地区長主催で全国6地区において、地区別支部長会議開催に伴う会場費等の経費について、10万円を上限として本部において負担援助した。(430,372円)

4. 就職関係

(1) 就職関連講演会等の実施

就職説明会開催希望支部について、講師選定と派遣について大学側と協議した。なお、大学教職員を講師派遣する場合の旅費交通費等は大学側の負担とした。

(2) 大学の就職支援体制等のプレゼンツールの作成
父母懇談会での説明ツールとして使用するほか、支部行事で活用出来るように、動画プレゼンテーション(PIP Maker)を作成した。(751,336円)

5. 大学事業(行事)に対する支援協働

会則に定める「目的及び事業」を達成するた

めに、大学事業については積極的に援助・協働することを基本とし、浦水会事業計画に基づき執行した。

(1) 父母懇談会および浦水会支部総会同日開催に伴う経費

平成27年度より大学主催の「父母懇談会」開催に伴い、浦水会本部と各支部が実施・運営に関して今年度も引き続き、大学との連携と協働体制のもと、実施経費のうち会場費等については、予算の範囲内にて浦水会が負担援助した。(7,001,575円)

(2) 父母専用相談窓口運営

平成27年度開設した父母専用相談窓口(父母ホットライン)の運営について、引き続き大学と協働して推進し、103件の問い合わせがあった。

(3) 交換留学生等の受入れ支援

今年度、担当部署と協議して試みたが、実施に至らなかった。次年度に向けて、実施体制の整備を図りたい。

(4) 新入生父母に対する説明会実施に伴う経費

学部主催「新入生父母に対する説明会」(入学式当日に実施)について、大学との連携と協働のもとで、本部役員も参加のうえ、各学部父母ガイダンスを実施したが、援助金執行はなかった。

(5) 体育後援会に対する援助

スポーツ活動を支援するため、本部拠出金として援助した。拠出にあたって、事務運営を担っている校友会に対して、運営方法については是正対応を条件とした。(4,000,000円)

(6) 「井上円了が志したものは」に対する援助

井上円了記念学術センターの企画・実施、実行委員会を構成、その運営費の一部を負担援助した。(1,154,500円)

(7) 卒業記念品

卒業記念品購入代金として大学・校友会・本会の三者負担による分担金を援助した。(1,800,000円)

(8) 全学的な行事に対する援助

白山祭(こもれび祭(川越)・朝華祭(朝霞)・雷祭(板倉)の4校舎の大学祭の実行委員会に対して援助金を支出した。(2,200,000円)

さらに、川越、朝霞、板倉の3校舎で実施されたスポーツ大会に援助金を支出した。(240,000円)

(9) 留学生連合会等に対する援助

留学生連合会等団体の活動に対し援助金を支出した。(70,000円)

(10) 学部行事等に対する援助

学生を対象とした学部行事・コンクール等において、優秀者に「浦水会会長賞」として授与した。具体的な内容は次の通り。

① 法学部新入生行事に対して、ポケット六法47冊を授与し、また法学部法律討論会および法学部ゼミ発表会に援助した。(64,607円)

② 国際地域学部の日本語・中国語弁論大会へ援助した。(40,000円)

③ 障がい学生支援ボランティア活動における功労者に対する表彰を行い、3年生10名へ表彰状を授与、4年生8名へ表彰状授与し、功労金を支給した。(80,000円)

(11) 「東洋大学教育・研究協力資金」募金に対する協力

創立150周年に向けて国際的に評価される大学を目指した「東洋大学教育・研究協力資金」に対して、平成26年度以降募金に協力している。平成29年度についても本部予算として「奨学事業の展開」へ100%充当の寄付を行い(1,000,000円)、併せて各支部及び会員に対して、大学への募金の協力をお願いした。

(12) 会長施策重点支援事業費

① 赤羽台キャンパスの開学に伴い、希望のあった紙袋を作成し、懇親を深めるために懇親会を開催した。(401,120円)

② 学祖をより理解するように、学長著作の「井上円了その哲学・思想」を購入し、支部長に配布した。(224,640円)

③ 昨年に引き続き、平成30年1月2日「東洋大学浦水会第94回箱根駅伝応援ツアー(日帰り)」を実施し、バス運行委託等の経費を支出した。参加者は38名で、一部経費負担として1人5,000円の参加費を徴収した。(400,850円)

6. 大学及び校友会行事等に対する協力

大学及び校友会が年間行事として実施する祭事等に、浦水会代表者を派遣・協力した。

平成29年4月6日 入学式

平成29年4月14日 2017年度新入留学生歓迎会

平成29年5月20日 東洋大学校友会支部長会

平成29年5月30日 体育後援会第1回運営委員会

平成29年6月6日 学祖祭

平成29年10月8日 校友会「平和祈念之碑に集う会」

平成29年10月22日 東洋大学校友会校友大会

平成29年11月4日 哲学堂祭

平成29年12月23日 留学生連合会年末交流会

平成30年1月17日 「井上円了が志したものは」表彰式

平成30年3月9日 一部・二部体育会表彰式

平成30年3月15日 校友会学生研究奨励基金授与式

平成30年3月23日 卒業式

7. 広報活動

会員相互間の連絡を密にすることを目的として広報活動を実施した。「会員のしおり」及び「会報東洋」の発送は、大学の送付物に同封し発行した。

(1) 浦水会本部発行物

① 新入会員対象の「会員のしおり」

平成30年1月発行

② 全会員対象の「会報東洋」

平成29年12月発行

③ 本部役員及び支部長対象の「浦水会ジャーナル」

平成29年4月発行・10月発行

④ 新会員(新入生の)「父母」向けのリーフレット作成

新1年生保証人に対して、浦水会活動の目的および行事に参加することのメリットをアピールして、身近なものとして感じてもらえるよう、新入生の父母向けのリーフレットを作成し約8,000部送付した。

8. 会員情報管理システム

浦水会本部では、大学と「個人データの提供に伴う個人情報保護の機密保持及び安全管理に関する契約書」を締結し、会員情報の運用管理について適正な管理に努めている。

大学の教務部門のシステム情報を利用し、会費納入処理等を行っているほか、会員情報管理システムの運営管理については、平成26年度からは、卒業生・浦水会連携推進課に依頼しており、同推進課のデータ提供により、支部要請の宛名ラベルを浦水会本部で作成している。

宛名ラベル等の支部への提供に際しては、「個人情報保護法」に基づき適切に管理されるよう、引き続き支部に対して協力をお願いしている。

ホームページについては、大学側ホームページにリンクし、大学の広報課と連携して、データ更新の円滑化と会員の閲覧の便宜性を確保している。

9. 会員の満足度向上と帰属意識昂揚のための施策

支部総会開催時に配布するために、ハンドタオルを1万枚作成して配布した。(2851,200円)

支部事業関係

(1) 支部総会

各支部で実施された。

平成27年度より実施している大学主催の「父母懇談会」開催に伴い、関東地区以外の支部については、原則として同日・同会場で

①就職説明(懇談)会

月 日	曜	支 部	場 所	事務説明者(敬称略)	出席者数
6月25日	日	島根県	ホテルビュー華満	外部講師 中澤	8
7月1日	土	埼玉県中央	川越東武ホテル	主任 小泉 昭	54
1日	土	埼玉県東	春日部市民文化会館	外部講師 山本 みどり	30
8日	土	茨城県	牛久市エスカード生涯学習センター	外部講師 川田 英利	91
9日	日	千葉県西	市川グランドホテル	外部講師 山本 みどり	64
15日	土	千葉県東	千葉市生涯学習センター	主任 白井 由希子	33
17日	月	神奈川県	ホテル横浜ガーデン	外部講師 山本 みどり	56
29日	土	北海道北見	ホテル黒部	外部講師 唐木 重典	5
30日	日	栃木県	コンセーレ	外部講師 山本 みどり	41
9月3日	日	京都府・滋賀県	南区暮らしの工房館及び・イオンモール京都Kotoホール	外部講師 若林 聡	7
10月1日	日	群馬県	前橋商工会議所	外部講師 茂木 明男 外部講師 山本 みどり 外部講師 山本 赤根 正太	77
11月3日	金	福島県	郡山市労働福祉会館	外部講師 佐藤 吉之 OB 坪井 優也 OG 石井 ひかり	54
11日	土	山形県	山形国際ホテル	外部講師 佐川 孝俊 外部講師 寺垣 勝仁	24
18日	土	秋田県	第一会館 本館	OG 石井 希 外部講師 加藤 孝 外部講師 高島 知行	27
25日	土	埼玉県南	埼玉会館	外部講師 村井 忠寛	53
25日	土	静岡県	静岡労政会館	主任 小泉 昭 外部講師 亀田 良介 外部講師 渡邊 結実枝 外部講師 小林 千明 OB 加藤 正市朗	111
12月2日	土	岩手県	アイーナ いわて県民情報センター	主任 小泉 昭 外部講師 佐藤 育男 OB 大谷 洸成	18
1月20日	土	宮城県	TKP仙台カンファレンスセンター	主任 小泉 昭 外部講師 鈴木 整	13
3月3日	土	沖縄県	宜野湾マリンセンター	OB 比嘉 正彦 OB 知念 正	13
合 計					779

(2) 支部行事

就職説明会・講演・研修会等支部主催行事については、支部からの開催要望に基づき、日程及び派遣者依頼願いについて大学側と調整した。また、講演・研修会等の講師について、

開催をしている。関東地区支部は、従来通り支部総会は別途に独自で開催している。

①支部総会…56支部 会員数26,595名

②開催日…平成30年6月24日～8月27日

③出席者…1,066名

て、大学教員を希望する場合には、本部からの紹介を含め協力した。

実施支部は以下の通りであり、浦水会の支部主催行事援助金支給規程に基づき援助金を支出した。

②大学施設設備校舎見学会

月日	曜	支 部	場 所	出席者数
4月9日	土	阪奈	川越校舎	7
11月4日	日	茨城県	白山校舎	40
18日	土	神奈川県	川越校舎	26
12月2日	土	栃木県	白山校舎・川越校舎	23
2日	土	群馬県	白山校舎・朝霞校舎	29
合 計				125

③講演・研修会等

月日	曜	支 部	講演会・研修会等/内容	講演者（敬称略）/場所	出席者数
4月29日	土	愛媛県	全日本大学選抜相撲 宇和島大会場所 応援及び県産品寄与	宇和島市営闘牛場	2
5月3日	水	大分県	第57回全国大学選抜相撲宇佐大会応援	宇佐市総合運動場宇佐相撲場	10
6月24日	土	東京都東 城西・中央 城北	講演会及び合同懇親会	東洋大学陸上競技部長距離部門コーチ 佐藤 尚 本学チアサークル『ミニーズ』による演技	76 100
7月8日	土	茨城県	創立130周年の新たな船出・東洋大学の未来像を描く-	東洋大学学長 竹村 牧男	91
15日	土	埼玉県北	アスリートの育成方法	雨水会顧問・萩野公介選手フィジカルコーチ 茂木 明男	37
16日	日	埼玉県南	「私の野球人生」	埼玉西武ライオンズアカデミーコーチ 平尾博嗣	74
23日	日	東京都多摩	親子で共に「理想の家族」を目指すために	㈱アスリートスタンダード 村井 忠寛	39
30日	日	栃木県	萩野公介選手と共に歩んで	萩野公介選手元パーソナルトレーナー 元雨水会会長 茂木 明男	41
9月10日	日	埼玉県南	日帰り研修旅行	埼玉県秩父長瀬方面	80
24日	日	東京都中央	第23回関東女子駅伝対校選手権大会	千葉ニュータウン中央	8
10月7日	土	東京都東	料理教室「簡単にできるパーティー料理」	江東区総合区民センター	30
7日	土	富山県	滑川ほたるいかマラソン応援と支援	スカイホテル滑川	1
9日	月	島根県	第29回出雲全日本大学選抜駅伝競走応援	出雲大社～出雲ドーム等	8
9日	月	岡山県	第29回出雲全日本大学選抜駅伝競走応援	出雲大社～出雲ドーム等	2
9日	月	広島県	第29回出雲全日本大学選抜駅伝競走応援	出雲大社～出雲ドーム等	33
9日	月	山口県	第29回出雲全日本大学選抜駅伝競走応援	出雲大社～出雲ドーム等	6
14日	土	埼玉県東	見学研修会	常陸の国出雲大社他	33
29日	土	東京中央	第35回全国大学女子駅伝対校選手権大会応援	仙台市陸上競技場	7
11月4日	日	東京都城西	哲学堂日帰り研修	哲学堂公園	13
4日 5日	土 日	石川県・福井県	全国学生相撲選手権大会応援ツアー	大阪府堺市大浜公園相撲場	9
5日	日	愛知県	第49回全日本大学駅伝対校選手権大会	熱田神宮西門等	15
5日	日	三重県	第49回全日本大学駅伝対校選手権大会	伊勢神宮内宮	12
11日	土	埼玉県北	日帰り親睦研修旅行	池袋サンシャイン水族館他	27
11日	土	東京都東	アロマ教室	江東区カメラリ	24
12日	日	東京都多摩	秋の研修旅行	河口湖セミナーハウス	32
18日	土	千葉県東	秋の研修旅行	東洋大学川越校舎他	71
19日	日	千葉県西	国立劇場・歌舞伎観劇とバックステージツアー	国立劇場	60
25日	土	埼玉県中央	日帰り研修バス旅	小田原城	60
12月10日	日	岡山県	研修旅行	神戸市立博物館他	5
24日	日	東京都中央	東洋大学箏曲研究会第44回演奏会参加	井上円了ホール	8
25日 ～29日	月 金	北海道室蘭	第90回 日本学生氷上大会（インカレ八戸大会）応援	テクノアイスパーク八戸他	8
25日 ～29日	月 金	北海道釧路	第90回 日本学生氷上大会（インカレ八戸大会）応援	テクノアイスパーク八戸他	4
27日 ～29日	水 金	青森県	第90回 日本学生氷上大会（インカレ八戸大会）応援	テクノアイスパーク	37
1月2日	火	山梨県	第94回東京箱根間往復大学駅伝競走応援	往復ゴール付近	13
2日	火	神奈川県	第94回東京箱根間往復大学駅伝競走応援	往路2.3.5区	45
3日	水			復路6.8.9区	
3日	水	茨城県	第94回東京箱根間往復大学駅伝競走応援	日比谷公園他	22
3日	水	埼玉県南	第94回東京箱根間往復大学駅伝競走応援	日比谷花壇前	25
3日	水	埼玉県東	第94回東京箱根間往復大学駅伝競走応援	日比谷花壇前国道1号線沿い	43
3日	水	千葉県西	第94回東京箱根間往復大学駅伝競走応援	大手町パシフィックセンチュリー横	50
3日	水	東京都中央	第94回東京箱根間往復大学駅伝競走応援	日比谷公園花壇前他	15
3日	水	東京都城北	第94回東京箱根間往復大学駅伝競走応援	芝増上寺横	30
27日	土	東京都東	日帰りバス研修会	ビール工場見学他	57
28日	日	佐賀県	「吉野ヶ里ロードレースin神崎市大会」での陸上競技部への応援	吉野ヶ里歴史公園内	5
2月17日	土	神奈川県	観梅会と講演「大倉山記念館と東洋大学」及び「働き方の多様性について」	横浜市大倉山記念館	41
18日	日	千葉県西	千葉県西支部バス研修	鎌倉市	37
25日	日	東京都城北	日帰りバス研修旅行	ドイツ村	64
3月4日	日	東京都多摩	立川市シティーハーフマラソン応援及びクッキングパーティー	昭和記念公園	34
25日	日	東京都中央	お花見&雅叙園ランチ	KANADE TERRACEと目黒川	9
合 計					1553

甫水会収支関係

甫水会費……………年額5,000円		
第1部	26,370名……………	131,850,000円
第2部	390名……………	1,950,000円
	26,760名……………	133,800,000円

※自然災害学生（免除） 4名 △20,000円

平成29年度会計報告

平成29年度決算は、4月及び5月に開催されました理事会・評議員会において、承認されました。

平成29年度一般会計決算報告書

自平成29年4月1日～至平成30年3月31日

貸借対照表

平成30年3月31日現在

(単位：千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
(流 動 資 産)	(121,553)	(流 動 負 債)	(1,460)
現 金	207	未 払 金	119
普 通 預 金	121,331	前 受 金	330
郵 便 振 替	15	預 り 金	1,011
(固 定 資 産)	(17,000)	正 味 財 産 の 部	
甫水会記念事業積立金	17,000	次 年 度 繰 越 金	120,093
		特 定 資 産 次 年 度 繰 越 金	17,000
合 計	138,553	合 計	138,553

一般会計収支計算書

自平成29年4月1日～至平成30年3月31日

(単位：千円)

収 入 の 部		支 出 の 部	
甫水会費収入	133,780	事 業 費	113,299
雑 収 入	722	管 理 費	12,671
投 資 活 動 収 入	0	投 資 活 動 支 出	3,000
前 年 度 繰 越 金	114,561	次 年 度 繰 越 金	120,093
合 計	249,063	合 計	249,063

平成30年度浦水会事業計画概要
(平成30年度評議員会資料抜粋)

平成30年度事業計画

東洋大学においては、昨年4月にスタートした白山キャンパスの国際学部(グローバル・イノベーション)学科、国際地域学科国際地域専攻、地域総合専攻)、国際観光学部国際観光学科、文学部国際文化コミュニケーション学科、赤羽台キャンパスの情報連携学部情報連携学科の教育研究活動も順調に推移しており、既存の学部学科を含めて、これまで以上にいっそう進展が図られています。

「東洋大学は世界標準の教育と研究、社会貢献活動を推進するのみならず、国際的に優れた水準の大学を目指す」といった「未来宣言」の実現を目指し、ワールドクラスの大学への道が着実に踏み出されています。

東洋大学浦水会は、昭和34年1月父兄会として設立されてから今日に至るまで、「東洋大学学生の父母又は学生の保護者相互間の連絡を密にし、大学の興隆発展に協力するとともに、大学と協力して学生の心身の健全な発達を図ること」を目的としており、平成31年度で創設60年目を迎えることとなります。

平成30年度は、浦水会として大学の掲げる目標及び事業を支援するとともに、60周年記念事業が会員とご子息ご子女各位にとって、実り多きものとなるように、平成30年度は次の基本方針に基づき実施します。

- 60周年記念事業に向けた新たな学生支援方策の検討及び実施
- 経済的困窮学生支援に対する体制の整備充実(奨学金支給基準の整備と支給の充実)
- 学生に対する課外活動及び就職活動の支援充実(支援方法の見直し含む)
- 浦水会主催行事の参加促進と本部及び支部活動の活性化のための体制整備

以上の基本方針のもと、平成30年度も引き続き、大学との「協働」「連携」の基本方針のさらなる充実を目指して、浦水会の事業を展開してまいります。

以下、平成30年度浦水会事業計画の概要を説明いたします。

本部事業関係

1. 諸会議及び行事

【諸会議】

- 評議員会
常任理事及び全国56支部長と1,000名以上の会員を擁する支部選出の評議員とで構成され、会則第6章評議員第21条の重要項目に関して審議を行う最高議決機関であり、定例会として年1回5月に開催する。
- 理事会
常任理事と地区長理事で構成され、本会運営の基本業務について常任理事会の執行事項の確認・承認を行う機関であり、定例会として年2回10月及び翌年4月に開催する。
- 常任理事会
原則として、毎月1回開催する(7・8月を除く)。
本会運営の基本的業務について、評議員会・理事会等で決定した事業計画を円滑に執行する。
- 常任理事会内委員会
必要に応じて委員会を開催し、業務を執行する。
- 役員選考委員会
次期役員候補者を全国56支部より推薦していただく、1月に役員候補者の選考を行う。
- 地区別支部長会議
全国10地区において地区長主催で、本部・支部活動の円滑な連携と各地区組織の活性化を目的とし、地区別支部長会議及び実務研修を2月に実施する。
- 全国56支部長研修会
本部主催で全国56支部長の参加による会議及び実務研修を9月に開催する。
- 父母懇談会での協働
大学主催による父母懇談会(平成27年度より浦水会主催の浦水懇談会を變更)の実施に際して、浦水会本部及び各支部が実施運営に協働(協力支援)することを本部事業として位

2. 学生支援諸制度

(1) 奨学生制度

① 家計急変者対象(従来の浦水会奨学金)

東洋大学第2種及び3種奨学金の申請が間に合わなかった学生で、支援を要する場合(③3万円×12ヶ月×5名≒180万円)

② その他(新規)

東洋大学第2種奨学金申請者で採用されなかった学生を対象とし、学生本人の傷病、就職活動等でアルバイトが出来ない場合、(学生支援課で採用されなかった学生上位30名@3万円×8ヶ月×30名≒720万円)

※大学の2種奨学金選考期間が4月～7月(4ヶ月)となっており、選考後の8ヶ月を支給期間とした。

(2) 学生クラブ・サークル、学術研究等援助・表彰制度

学生クラブ・サークル活動(運動部、文化部、学術研究サークル、ゼミ等)に対して、学生部と連携して、広く援助又は表彰する。援助及び表彰を通じて、活動の奨励を図る。学生クラブ・サークルに該当しない学生団体及び個人についても対象とし、顕著な活動が認められ大学から特段の要請があった場合について援助又は表彰する。(440万円)

置く。関東地区の各支部(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県、栃木県、群馬県)の会員に対しては、学生が在籍する各キャンパス(白山、川越、朝霞、板倉、赤羽台)で6月に実施する。関東地区以外の各支部の会員については、全国26会場にて6月～8月に実施する。

大学教職員より、履修成績、学生生活及び就職の支援体制について説明するほか、個別面談を実施する。

(9) 会員の集い・就職フォーラム
会員相互の親睦を深め、就職関係の充実を図ることを目的とし、11月に実施とする。講演内容として、魅力ある講演者・テーマ等を選択し参加者の増員を図る。なお、遠隔地支部会員については、規定額の交通費を補助する。

(3) 国際化の支援

大学の国際化を支援の一環として、外国人留学生と日本人学生のコミュニケーションとグループワーク等の関るイベントに対する支援を行う。大学の交流イベントを協賛、補助する形で外国人留学生が興味を持っている日本の衣食住、文化芸術に関する講演会の実施などを行う。(100万円)

(4) 就職活動支援

① ビジネススーツ等購入支援(紳士服販売業者と提携して無料配布)
予算に限りがあることを考慮して、家計急変者等に対象を限定し、奨学金の補てんを趣旨とした支援を行う。経済的困窮学生の選考評価が難しいことを踏まえて、浦水会の奨学金受給者及び東洋大学第2種、3種奨学金の受給者を対象とし、大学の奨学金説明時に併せて広報するなど、周知の時期や広報の仕方を併せて工夫する。(120名×@2万円・240万円)

② 就活グッズの作成配布
就職活動を行う学生全体に対して、就職活動に活用できるグッズ(大学独自の履歴書、カードミラーなど)を作成して配布する。(260万円)

(5) 学生の食育支援

食育の一環として、平成30年度も引き続き大学からの申請に基づき援助する。食環境科学部の助言及び協力を得る事も検討しながら進めていく。

① 全学生を対象とした朝食支援は引き続き実施する。(200万円)

② 学生カフェにおける朝食支援(新規)
浦水会60周年記念事業として、各キャンパスに学生の憩いの場として学生カフェの設置支援を行うことに並行して、朝食として牛乳、ヨーグルト、グラノーラ、シリアルなどの軽食を支援する。これにより、食育支援のほか、学生の孤立防止、アクティブラーニングの支援などに寄与する。(400万円)

(6) 東洋大学社会貢献センター学内講座浦水会援助制度

平成28年度より新設の東洋大学社会貢献セ

ンター学内講座の実施に伴い、申請に基づき広く褒賞金を支給する。支給にあたっては、他学部との褒賞金とは重複しないものとし、予算の範囲内で学生1人当たり年度1回とする。(50万円)

(7) 弔慰金制度

不測の事故等で会員又は会員のご子女が死亡した時、その遺族に対して弔慰金3万円を支給する。(60万円)

(8) 学生総合補償制度

1年生対象の任意加入、学生総合補償制度の案内を、東洋大学の子会社であるキャンパスサービスに委託して実施する。なお、引き続き、周知方法・時期を工夫する、補償内容を見直す等の改善により、加入者の増加を図ることとする。

3. 浦水会費の徴収・支部運営費の交付

(1) 浦水会費の徴収

浦水会費は、1部学生については、大学に代理徴収を依頼し、入学時及び毎年授業料払込時5,000円を徴収し、2部学生については、任意加入とし、本部において徴収する。(13,500万円)

(2) 支部運営

① 支部運営費は、支部所属会員数1人当たり1,000円を乗じて算定する。さらに、会員が1,000名未満支部については、100,000円を加算し、本部から年1回6月に各支部に交付する。(3,260万円)

② 支部運営費については、講演会、校舎見学等、その実施目的が会員の親睦のみに限定されない支部開催事業(支部行事)に対して充てられるものとし、原則として支部予算の範囲内で実施するものとする。ただし、支部予算では賄えない場合で、やむを得ないと認められる場合に限り、支部からの申請に基づき、本部において審議のうえ、年度中10万円の範囲内で交付金を支給する。

③ 別途、就職説明会、文化・体育活動の支部主催応援行事等については、支部会員全体に周知することを前提に支部からの申請に基づき、年度中10万円の範囲内で援助する。なお、援助にあたっては、繰越金等の支部

の収支状況を考慮して、援助の有無、援助金額について審議する。(350万円)

4. 就職関係

(1) 就職関連講演会等の実施

本部または各支部で実施する就職関係講演会等行事については、6月から実施する父母懇談会の内容を踏まえた上で、実施時期、講演者、講演内容を検討する。

行事内容の策定及び講演者の選定については、父母のニーズに合致しているか等効果を考慮するとともに、実施に際しては、浦水会事務局を通じて大学における就職関連担当事務局(就職・キャリア支援部等)の意見及び推薦を踏まえることとする。

(2) 大学の就職支援体制等のプレゼンツールの作成

就職関連講演会を中心とした大学からの支援体制の説明ツールとして、前年度に引き続きパワーポイントで作る動画プレゼンテーション(PIP Maker)を作成する。就職環境の変化や支援体制変更に伴う説明内容の変更点を更新するほか、新たな説明ツールの作成も行う。ツールの更新、新規の作成に際して、父母(会員)に対するアンケート等を基に、ニーズや意見を反映させるようにする。各支部に配布して支部行事の活性化を図るほか、作成を通じて父母懇談会での大学関係者の説明支援に寄与する。(60万円)

5. 大学事業(行事)に対する支援協働

会則に定める「目的及び事業」を達成するために、大学事業については積極的に援助・協働することを基本としている。

(1) 父母懇談会および浦水会支部総会同日開催に伴う経費

平成27年度より大学主催の父母懇談会実施に伴い、浦水会本部と各支部が実施・運営に関して、今年度も引き続き大学との協働連携・支援・協力体制とする。特に、全国会場で実施する、地区別父母懇談会ならびに浦水会支部総会の実施経費のうち、会場費等については、大学事務局との話し合いにより、予算の範囲内で浦水会が負担する。(1,000万円)

(2) 父母専用相談窓口運営の設置

平成27年度から開設された、父母専用相談窓口(父母ホットライン)の運営について、大学と協働して推進する。

(3) 交換留学生等の受入れ支援

大学の要請に基づいて、交換留学生を中心としてホームステイの受入れに協力支援する。受入期間や受入要件、謝礼等についての基準を明らかにするとともに、当面は、東京を中心とした関東地区で受け入れ態勢を確保することとする。(100万円)

(4) 新入生父母に対する説明会実施に伴う経費

学部主催「新入生父母に対する説明会」(入学式当日に実施)について、大学との協働のもとで、支援拡充を図り、必要な経費の一部について予算範囲内で浦水会が負担する。(10万円)

(5) 「井上円了が志したものは」に対する援助

井上円了記念学術センター内の実行委員会に本部役員が構成員として任用されており、実施企画について、その運営費の一部を援助する。(200万円)

(6) 卒業記念品

毎年度、卒業記念品購入代金として大学、校友会、本会の三者による分担金を支出する。記念品目については、関係部署と事前に協議する。(180万円)

(7) 全学的な行事に対する援助

既存の5校舎における大学祭(白山祭、こもれび祭(川越)、朝華祭、雷祭(板倉)、赤羽台)及び3校舎におけるスポーツ大会(川越、朝霞、板倉)について、援助金を支給する。(250万円)

(8) 留学生団体等に対する援助

大学の国際化が求められている今日、大学の活性化にも繋がる留学生連合会等団体の活動に対し広く援助金を支給する。(10万円)

(9) 学部行事等(ゼミナール単位)での取組みを含む)に対する援助

① 学生を対象とした学部行事・コンクール等において、優秀者に「浦水会会長賞」を授与する。併せて、援助金を支給する。(50万円)

② ゼミナール単位における社会貢献活動、卒

業生実務担当者と在校生の連携協力に対する支援を行う。(50万円)

(10) 「東洋大学教育・研究協力資金」募金に対する協力

「創立150周年に向けて国際的に優れた水準の大学を目指す。」といった「未来宣言」の実現を支援すべく、大学の寄付募金の趣意に添った形で寄付を行う。

昨年度に引き続き、「奨学事業の展開」に対して1,000万円の寄付を行うほか、「課外活動支援(公認サークル全般を対象とした学生課外活動及び学生ボランティア)」の支援として、別途1,000万円の寄付を行い、具体的な使途について大学より報告を求め、追加の支援の財源としては、体育後援会の拠出金400万円と学生協力費等の未執行見込み分を補填する。(2,000万円)

(11) 会長施策重点支援事業費

学生により近いところへの支援事業として、会長が考案した内容について、常任理事会での承認を得て支出するものとする。(100万円)

6. 大学及び校友会行事等に対する協力

大学及び校友会が年間行事として実施する祭事等に、浦水会代表者を派遣する。

7. 広報活動

会員相互間の連絡を密にすることを目的として広報活動を実施する。

(1) 浦水会本部発行者

① 新入生対象の「会員のしおり」……年1回(平成31年1月発行予定)

② 全会員対象の「会報東洋」……年1回(平成30年12月発行予定)

③ 本部役員及び支部長対象の「浦水会ジャーナル」……年2回(平成30年4月・10月発行予定)

「会員のしおり」及び「会報東洋」の発送は、大学の送付物に同封する。

④ 新会員(新入生のご父母)向けのリーフレット作成

リーフレットは、引き続き新入生向きと作成する。「会員のしおり」「東洋」についても一般会員の活動参加の啓発と2部学

生の保証人等の未加入者の勧誘を図れるように、会員であることのメリットを強調するなど内容について工夫する。

浦水会の発行者と大学作成の「父母懇談会ガイドブック」との重複事項を省き、効率的で効果的な作成を行う。(140万円)

(2) 浦水会ホームページの充実

東洋大学ホームページとのリンクを確保して、大学と浦水会との情報の共有化を図ると共に、浦水会ホームページにおいて、各支部で行事計画及び報告を紹介するなど、支部内及び支部間の情報の共有化により、支部活動の活性化を図る。(100万円)

(3) キャンパスガイドの作成

学部別父母懇談会実施時等における各校舎の見学案内に供するため、大学全校舎(赤羽台校舎含む)の概要を記したパンフレットをリニューアルする。(40万円)

(4) 本部及び支部活動促進のためのグッズ作成(当年度役員就任者への配布)

当年度役員就任のモチベーションを高め、支部活動の活性化に寄与することを目的に作成する。

大学の作成グッズを大学と協働で作成して、効率的な作成を図り、併せてコストの低減を図る。配布に際しては、事前に配布の目的を会員に周知徹底すると共に、配布基準に基づき会員間の平等性を確保する。(400万円)

8. 会員情報管理システム

浦水会本部では、大学の教務部門の情報を利用し、会費納入処理等を行っている。

会員情報管理システムは、平成26年度からは卒業生・浦水会連携推進課に依頼することとなった。また、支部要請の宛名ラベルを本部で作成提供できるようになっている。

情報の使用・管理については、個人情報保護法に基づき適切に管理されるよう、引続き支部でのご協力をお願いする。

大学と「個人データの提供に伴う個人情報保護の機密保持及び安全管理に関する契約書」を締結し、申請に基づき取り扱っている。なお、ホームページについては、大学側ホームページにリンクし、最新データを随時加えることにより、

情報化を促進する。

9. 会員の満足度向上と帰属意識昂揚のための施策
 支部総会等甫水会主催行事への会員の参加を促進すべく配布する。グッズの内容は、応援グッズなど活動促進に資するものとし、大学と協働で作成して効率的な作成を図り、併せてコストの低減を図る。(300万円)

支部事業関係

各支部が中心となつて主催する行事等については「支部主催行事等援助金」支給基準に基づき援助を行う。

(1) 支部総会

平成27年度より実施の大学主催の父母懇談会開催に伴い、関東地区以外の支部については、原則として支部総会開催は、大学主催の父母懇談会開催日と同日の同じ会場で実施する(一部都合により父母懇談会と別日程で支部総会を開催せざるを得ない場合は、甫水会本部と相談のうえ、別途支部において、別日程で支部総会を開催する場がある)。

(2) 就職説明(懇談)会

各支部において、独自で就職説明(懇談)会を計画した場合は、「甫水会支部関係業務等処理手順」に基づき、甫水会事務局へ申請書を提出する。支部からの開催要望に基づき、大学側と調整し支部へ報告する。

(3) 校舎見学会

5校舎の父母懇談会時及び本部主催事業「会員の集い・就職フォーラム(白山校舎)」の実施に際して、校舎見学を実施する。支部単位での個別の校舎見学についても受付けることとし、校舎案内者を派遣依頼要請する関係から、就職説明(懇談)会同様の手順で申請を受け付ける。平成29年度開設の赤羽台キャンパスについても、父母懇談会時等に実施できるように調整する。

(4) 講演・研修会等
 講演・研修会等の講師について、東洋大学

の教員等を講師として希望する場合、支部からの申請に基づき、本部にて担当課と調整のうえ派遣する。

甫水会収支関係

1. 収入について

- 平成30年度の甫水会費5,000円は、大学に委託徴収を依頼している。
 第1部の入学生及び在学生から徴収する。
 なお、留学生は除く。
 第2部の入学生及び在学生からは、任意加入として本部が徴収する。
- 雑収入は、学生総合補償制度の事務費収入等がある。

2. 支出について

【事業費】

- 本部関連事業の主要行事である支部総会、会員の集い・就職フォーラム、就職説明(懇談)会、会報発行等については大学の関連部署と協働を図り、予算を執行する。
- 支部関連事業の支部主催行事についても規程に準じて援助し、各支部の活性化を図る。
- 学生協力費については、前年度通り本会の目的に基づき、大学祭、スポーツ大会、クラブ・サークル等の援助金を大学の関連部署と連携して支給する。
- 人件費は、事業費関連事務に伴う人件費を、労働契約書に基づき支出する。
- 平成30年度新規施策事項については、必要な経費を計上した。

【管理費】

- 会議費は、各会議等に要する旅費交通費等である。
- 通信費・印写費・支払手数料・備品費等事務に要する費用を科目ごとに計上している。
- 人件費は、事業費関連事務以外の事務に伴う人件費を、労働契約書に基づき支出する。
- 平成30年度新規施策事項については、必要な経費を計上した。
- 予備費については、緊急支出として措置する。

平成30年度予算書

平成30年度予算は、理事会・評議員会において、事業計画書と共に提出、報告されました。

平成30年度一般会計収支予算書

自平成30年4月1日～至平成31年3月31日

(単位：千円)

収入の部		支出の部	
甫水会費収入	135,000	事業費	148,623
雑収入	553	管理費	25,644
投資活動収入	0	投資活動支出	3,000
前年度繰越金	84,131	予備費	0
		次期繰り越し収支差額	42,417
合計	219,684	合計	219,684

以上の説明、報告を受け「平成30年度一般会計予算書」については、審議の結果承認されました。

【特定資産取得支出】
 ① 甫水会記念事業積立金は、甫水会60周年記念事業(平成31年度)に向けての準備積立金を計上し、執行する。(300万円)
 ※現在、大学が検討している学生カフェの設置などの支援の供するように、60周年記念事業(平成31年度)の予算化を検討しているが、場合によっては、大学より平成30年度に一部支援の要請があることが想定される。その場合は、補正予算において特定資産の取り崩しを行い対応する。

平成30年度父母懇談会・支部総会報告

学部別父母懇談会参加者数

校舎	学部	申込会員数	参加者数	実施日
白山	文学部	142	177	6/11(日)
	経済学部	135	163	
	経営学部	146	187	
	法学部	82	94	
	社会学部	166	192	
	国際地域学部	44	49	
	国際学部	29	36	
川越	国際観光学部	39	47	6/11(日)
	理工学部	233	315	
朝霞	総合情報学部	56	78	6/10(土)
	ライフデザイン学部	108	114	
板倉	生命科学部	72	109	6/10(土)
	食環境科学部	76	97	
赤羽台	情報連携学部	102	161	6/18(日)
出席者合計		1,430	1,819	

※参加人数は複数参加者を含む

首都圏支部総会参加者数

支部名	会員数	参加者数	出席率(%)
茨城	1,603	95	5.9
栃木	755	41	5.4
群馬	767	62	8.1
埼玉北	491	41	8.4
埼玉中	1,592	44	2.8
埼玉東	1,390	33	2.4
埼玉南	2,726	102	3.7
千葉東	1,801	52	2.9
千葉西	2,062	60	2.9
城東	1,238	20	1.6
城西	682	15	2.2
中央	561	15	2.7
城北	1,894	20	1.1
多摩	1,836	42	2.3
神奈川	2,083	46	2.2

6月時点会員数

※参加者数は受付名簿による

首都圏以外41支部

父母懇談会・支部総会(成績・履修出力数)

支部名	父母懇談会開催場所	会員数	父母懇談会	支部総会申込件数	支部総会総参加者数
札幌・函館	札幌市	185	39	28	26
旭川		26	6	5	6
北見		14	1	4	5
室蘭		27	2	2	2
釧路	釧路市	53	3	3	2
青森	青森市	103	19	14	13
岩手	盛岡市	100	21	14	13
宮城	仙台市	174	15	8	9
秋田	秋田市	112	20	13	15
山形	山形市	152	30	23	26
福島	郡山市	391	43	20	25
新潟	新潟市	707	71	43	57
富山	富山市	128	39	19	24
石川・福井	金沢市	134	15	9	11
山梨	甲府市	144	14	11	13
長野	長野市	609	59	32	38
岐阜	名古屋	67	19	9	11
愛知		193	26	22	20
三重		47	9	7	7
静岡	静岡市	588	58	38	37
京都・滋賀	大阪市	51	3	3	3
阪奈		109	9	3	7
和歌山		16	8	5	7
兵庫	姫路市	151	26	12	21
岡山	※岡山市	32	0	3	4
鳥取	松江市	27	6	2	6
		19	6	5	6
広島	※広島市	106	19	17	15
山口	周南市	38	12	11	12
徳島	新居浜市	21	4	4	4
香川		44	7	4	7
愛媛		46	15	9	8
高知		44	5	4	5
福岡		140	25	12	19
佐賀	福岡市	19	8	4	8
大分		30	3	1	3
長崎	長崎市	43	11	3	7
熊本	熊本市	79	16	9	13
鹿児島		34	4	4	3
宮崎		44	23	19	23
沖縄	那覇市	63	12	9	11

6月時点会員数

参加者数は受付名簿による

※地区別父母懇談会は他支部との合同開催でしたが、天候不順のため地元開催となりました。

2019年度 東洋大学父母懇談会及び甫水会支部総会実施スケジュール (案)

① 学部別父母懇談会

- 6月16日(日) 赤羽台キャンパス
- 6月22日(土) 川越キャンパス
- 6月29日(土) 朝霞キャンパス・板倉キャンパス
- 6月30日(日) 白山キャンパス

② 地区別父母懇談会・支部総会

実施日	曜日	開催県等	支部名	会場
6月22日	土	宮崎県	宮崎県	JR九州ホテル宮崎 (KITENビルコンベンションホール)
6月22日	土	鹿児島県	鹿児島県	鹿児島 東急REIホテル
6月23日	日	鳥取県	鳥取県、島根県	ANAクラウンプラザホテル米子
6月23日	日	沖縄県	沖縄県	琉球温泉 瀬長島ホテル
6月29日	土	愛知県	愛知県、岐阜県、三重県	名鉄ニューグランドホテル
7月6日	土	兵庫県	兵庫県、岡山県	姫路キャッスルグランヴィリオホテル
7月7日	日	福島県	福島県	ホテルハマツ
7月7日	日	静岡県	静岡県	ホテルセンチュリー静岡
7月7日	日	大阪府	大阪府・奈良県、京都府・滋賀県、和歌山県	梅田スカイビル
7月13日	土	秋田県	秋田県	パーティーギャラリーイヤタカ
7月13日	土	山形県	山形県	山形国際ホテル
7月14日	日	宮城県	宮城県	仙台国際ホテル
7月14日	日	山梨県	山梨県	アーバンヴィラ古名屋ホテル
7月20日	土	長野県	長野県	ホテル国際21
7月20日	土	広島県	広島県、山口県	ワークピア広島
7月21日	日	北海道・札幌	札幌・函館、室蘭、旭川、北見	札幌パークホテル
7月21日	日	新潟県	新潟県	ANAクラウンプラザホテル新潟
7月27日	土	高知県	高知県、愛媛県	高知共済会館
7月27日	土	香川県	香川県、徳島県	高松 東急REIホテル
7月27日	土	富山県	富山県	ANAクラウンプラザホテル富山
7月28日	日	石川県	石川県・福井県	ANAクラウンプラザホテル金沢
7月28日	日	北海道・釧路	釧路	釧路プリンスホテル
8月17日	土	青森県	青森県	ホテル青森
8月17日	土	長崎県	長崎県	長崎ワシントンホテル
8月18日	日	岩手県	岩手県	ホテルメトロポリタン盛岡 本館
8月18日	日	福岡県	福岡県、大分県、佐賀県、熊本県	ホテル日航 福岡

平成31年度地区別父母懇談会 実施スケジュール (案)	
時間	内容
12:30	受付開始
13:00	父母懇談会 (I) ・大学現況説明 (30分) ・成績説明・個別面談 (90分)
15:00	・移動・休憩 (10分)
15:10	甫水会支部総会 ・会議 (60分)
16:10	・移動・休憩 (10分)
16:20	父母懇談会 (II) ・就職講演 (50分)
17:10	・移動・休憩 (10分)
17:20	甫水会支部懇親会開始
19:00	終了

※1) 大学と甫水会との協働の観点から、大学としても甫水会支部総会の参加率向上のため、地区別父母懇談会に実施形態の見直しを行う。就職講演を、支部総会の後に行い参加率の向上が図れるように調整する。

※2) 会場については、予算の範囲内で、サービスと利便性の観点から満足度の高い会場を選択する。会場の選定は、支部長からのアンケートに基づき行う。

※3) 甫水会支部懇親会については開催しない支部もある。

※会場については、2019年2月4日現在です。上記日程・会場については変更の可能性もございます。

平成三十年度 浦水会

「会員の集い・就職フォーラム」を開催して

東洋大学浦水会副会長 竹内 夕美子

11月11日、白山キャンパスに於いて、全国から総勢924名の会員の方にご参加いただき、浦水会の最大イベントである「会員の集い・就職フォーラム」が開催されました。

今年初の試みとして、鉄紺の地色に大学のロゴをデザインしたTシャツ型のクッキーを制作し、ご参加いただいた皆様に、お土産にお持ち帰りいただきました。

午前中は学生がガイドを担当する恒例のキャンパスツアーが実施され多くの方がご参加くださいました。

フォーラムに先立ち、東洋大学グループ・サウンズ・オーケストラによる演奏が行われ、軽快な音楽でフォーラム前のひとときをお楽しみいただけたことと思います。

その後、竹村学長より東洋大学の現況と未来像なども踏まえてご挨拶をいただき、続いて浦水会荻野雅彦会長よりご挨拶をさせていただきます。

14時、いよいよ就職フォーラムのスタートです！今年、株式会社人材研究所の代表取締役社長、曾和利光氏を講師に迎え、「就活生の親が知っておくべき現在の就活環境」と題し、メディアでは売り手市場といわれているが、その実情はどうなのか？大企業とベンチャーのメリット・デメリット、大手や人気企業を狙うためのポイントなどについてご講演をいただきました。

話の中で特に印象的だったのは求人倍率

1.88倍の売り手市場とはいってもこれは平均の数値であって業種や規模による格差がとても大きいという事実があるということです。

業種別では流通業12.57倍、建設業9.55倍なのに対し、人気のサービス・情報業では0.45倍、金融業では何と0.21倍という狭き門であるということ、さらに従業員数300人未満の中小企業では9.91倍であるのに対し、5,000人以上の大企業では0.37倍で合格率は1%であるということ、この1%の具体的なイメージとしては4回の面接機会で毎回1/3に絞られ、その1/3に入らなければ大企業には就職できないということ（1%÷30%×30%×30%×30%）。

さらに面接対策については、具体的な例をたくさん挙げて即使えるテクニックを交えて対策を丁寧に教えてくださり、これは保護者だけではなくこれから就活に臨む学生にも是非聞かせたいような実践的なお話でした。

会場では終始領きながら話を聞く方、真剣にメモを取る方の姿も多く見られました。

我々親世代が就職活動をした時代にはなかったエントリーシート、インターンシップ、SPIテスト、就職ナビ、スカウトメディアなどの存在、目まぐるしく変わる就活を取り巻く環境を理解して親としてできることを探して関わっていくことが肝要だと感じました。

その関わり方について考える時間が講演終了

後のパネルディスカッションです。ここでは昨年度東洋大学（大学院）を卒業した社会人一年目の7名の卒業生と浦水会会員による本音トークが繰り広げられ、卒業生が自分の経験から感じた、就活生が親に望むこと、どの様に関わって欲しいかをお話してくださいました。

それによると、就活生が親へ望むことは、干渉しすぎないで（相談してきたら答えるくらいの距離感を保って）ほしい、金銭的な援助はしてほしい、現在の就活事情について正しく理解してほしい、いつも味方でいて背中を押してほしいなど、わかってはいても親としてはなかなか難しい課題ばかりのように感じましたが、過干渉・無関心にならず、適度な距離を持って子供が望む支援をしていくことが大切なのだと感じました。

フォーラムの後は場所を変えて懇親会を開催いたしました。ここにもたくさんの方がご参加くださり、会員同士の交流や、パネリストを務めた卒業生との会話を楽しみ和やかなひとときを過ごし、長かった一日が幕を閉じました。

遠路ご足労いただきご参加くださった会員の皆様、本当にありがとうございました。

今後も浦水会は学生が充実した学生生活を送れるよう活動を充実してまいりますので、引き続きご支援ご協力を頂ますようどうぞよろしくお願い致します。

『学研災付帯学生生活総合保険』のご案内

総合保険の案内導入文書(会報「東洋」記載)

●「学研災付帯学生生活総合保険」の開設について

昨年度まで、学生の課外活動拡大や災害事故など多様化する様々なリスクを総合的に補償するべく、甬水会独自の保険制度として「学生総合保障制度」を導入して加入のご案内をしておりましたが、取扱い事業会社である「株式会社キャンパスサービス」が損害保険代理事業から撤退することとなり、2018年度で受付を終了することとなりました。

2018年度以前の保険加入各位におかれましては、甬水会事業へのご協力に感謝申し上げますとともに、加入した年度より4年間の補償は継続されますことを申し添えます。

このたびの「学生総合保障制度」の受付終了に伴い、東洋大学では新たに設立された事業会社「東洋大学グローバルサービス株式会社(TUGS)」が「株式会社キャンパスサービス」から損害保険代理店事業を引き継ぐ形で「学研災付帯学生生活総合保険」を開設して、ご父母(保護者)各位にご案内するはこびとなりました。

つきましては、甬水会会員を含むご父母(保護者)各位に、是非ともこの案内をご一読いただき、加入をご検討いただければ幸いです。

以上

東洋大学では、大学の授業中、学校行事中、課外活動中(大学に届けたものに限る)及び学校施設内における休憩中並びに通学中(大学施設間の移動中も含む)に発生したケガに備え、(公財)日本国際教育支援協会の『学生教育研究災害傷害保険』(略称「学研災」)に、全学生を被保険者として加入しております。ただし、この制度は学校施設外での活動、日常の学生生活全体をカバーするものではありません。

一方、学生の活動範囲は学内のみならず、学外での活動の機会も増えております。そこで東洋大学では、学生生活全般に対応できる補償制度として、『学研災付帯学生生活総合保険』(略称「付帯学総」)へのご加入を、学校法人東洋大学100%出資会社「東洋大学グローバルサービス株式会社」を代理店としてご案内しております。

「付帯学総」は「学研災」では補償されない学内外におけるケガや病気の治療費用実費(健康保険等適用の自己負担分実費の補償、インフルエンザを含む)を補償する他、加害事故時の賠償責任補償(アルバイト中・部活動中を含む)等、学生生活を24時間総合的に補償する内容(※1)となっております。

さらに、学生の皆様が賠償事故を起こした場合でも、保険会社が示談交渉を行うことができる「示談交渉サービス」が付帯されております。

また、(公財)日本国際教育支援協会の団体制度で団体割引(30%)が適用になりますので通常の加入に比べ割安な保険料になっております。

(※1)授業中、学校行事中、学校が認めた課外活動(クラブ活動)中、学校施設内(寄宿舎を除く)の事故における死亡・後遺障害については「付帯学総」の補償対象ではなく、「学研災」の補償対象となります。

【主な特徴】

▶ 病院の治療費実費を1日目から補償

事故によるケガだけでなくカゼ等の病気も治療費実費を1日目から補償(入院だけでなく通院も補償)

▶ 賠償責任保険は24時間を幅広く補償

授業中・学校行事中のみならず24時間補償(アルバイト中、自主参加のインターンシップ中も補償)
示談交渉付き

★ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。ご不明な点等がある場合には取扱代理店までお問い合わせください。

本保険の対象となる事故の例として、次のようなケースがあります。

ケース 1 ケガをしたときの補償

スノーボードで
ジャンプの着地に失敗、
肩から転倒し、右肩骨折。



ケース 2 病気をしたときの補償

インフルエンザで
10日間入通院した。



ケース 3 法律上の賠償責任を負ったときの補償

アルバイト先の店のグラスを破損し、
グラス購入費用を請求された。



自転車で走行中、
他人にぶつかり
大けがを負わせた。



ケース 4 扶養者にもしものことがあったときの資金補償

〈育英費用〉
扶養者が事故で亡くなり、
当面の生活費が必要となった。



〈学資費用〉
扶養者が事故で亡くなり、
学費を支払えなくなった。

〈疾病学資費用〉
扶養者が病気で亡くなり、
卒業までの学費を払えなくなった。



ケース 5 捜索救助費用や入院等で親族等が駆けつけたときの補償

部活動で大ケガし、
入院が長期にわたったため、
実家から母親が看病に来た。



ケース 3 下宿生・寄宿生用の補償

ガスコンロ使用の際、
目を離したところ、
コンロ付近のビニール袋に引火し、
壁に損傷を与え、家主に対して
法律上の賠償責任を負った。



お問い合わせ・連絡先（保険取扱代理店）

東洋大学グローバルサービス株式会社

TEL : 03-3945-4261

E-mail : info@tugs.co.jp

取扱代理店

引受保険会社

東洋大学グローバルサービス株式会社

東京海上日動火災保険株式会社

（学校法人東洋大学が100%出資した事業会社です。）

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20
（東洋大学白山キャンパス内）

〒102-8014 東京都千代田区三番町6-4

★東洋大学 父母専用相談窓口(父母ホットライン)

(ご父母または保証人の皆さまに対する電話相談窓口)

東洋大学甫水会事務局内に、父母専用相談窓口（父母ホットライン）を開設しています。

学部在籍のご子女のことで、ご父母または保証人の皆さまが、大学のどこの部署へ相談したらよいかわからない等、お困りのことがございましたら、この相談窓口まで、電話にてお問い合わせください。

電話番号：03 - 3945 - 7883

受付時間：9：30～16：30（月曜日～金曜日）

※大学へのご連絡に際して

授業運営や事務手続きに関する質問等につきましては、ご子女が所属する関連窓口へ直接申し出ていただくようお願いしています。お子様の自主性を尊重し、学修を実質化する意味において、父母および保証人の皆さまにおかれましてもご助言いただきますようお願い申し上げます。

甫水会からのお願い

保証人住所変更手続きについて

転居等により保証人住所・電話番号を変更される場合には、ご子女に東洋大学ホームページサイト『ToyoNet-G』（とよねっとジー）で変更手続きを行うようにお伝え下さい。

この手続きで「父母懇談会」・「支部総会」・「会員の集い・就職フォーラム」・「会報 東洋」等、甫水会及び会員の皆様が所属する支部からのすべての送付物のあて先に反映されます。

なお、甫水会では、住所変更手続きは受け付けられませんので、ご了承のほどお願い申し上げます。

教務担当窓口への提出 もしくは『ToyoNet-G』からの変更をお願い致します。

雨水会活動写真

● 父母懇談会



富山会場

大学教職員による学校紹介と就職説明を行っています。

● 会員の集い・就職フォーラム



就職フォーラム

前年度卒業生と保護者代表の雨水会役員によるパネルディスカッションを行いました。

● 課外活動への支援



軽食支援

生協と協働し、テスト期間中に①フルグラと②牛乳または豆乳麦芽コーヒーを無料で配布しました。



カードミラー

就職活動中の学生へ、カード型のミラーを配布しました。

● 支部活動



千葉県西支部

2019年の箱根駅伝の応援へ。

支部活動

全国56支部では様々な活動を行っております。支部でのイベント開催時にはお住いの支部より連絡が来ます。お時間がありましたら是非、参加してみてください。

例えば…

- ① バスをチャーターして学生が通うキャンパス見学。
- ② 運動部等の応援。
- ③ 講師を呼んで、就職講演。

他多数！

東洋大学雨水会

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20 (8号館中2階)

TEL.03-3945-0123 FAX.03-3942-7612

メールアドレス hosui@toyo.jp

発行日 2019年3月1日 編集・発行 東洋大学雨水会